都城市文化財調査報告書 第８８集

市　内　遺　跡

２００８．３

宮崎県都城市教育委員会

序　文

本書は、都城市教育委員会が各種開発に対し埋蔵文化財の保護を図るため、平成19年度国県補助を受け実施した市内遺跡の試掘･確認調査の報告書です。

都城市は旧都城市と北諸県郡の四町(旧山之口町、旧高城町、旧高崎町、旧山田町)において合併を行い、平成18年１月１日に新しい都城市が誕生し、南九州の交通の要衝並びに産業の拠点として今後ますます重要な役割を担っていくことになります。

本書が地域の文化財保護への理解を深める一助となり、また、学術資料として広く活用いただければ幸いです。

最後になりますが、試掘・確認調査にあたり調査に従事していただいた市民の皆様をはじめ、地権者ならびに開発関係者のご協力を頂きましたことに対して深く感謝申し上げます。

平成20年３月

都城市教育委員会
教育長　玉利　　譲

例　言

1．本書は、各種開発事業にともない、都城市教育委員会が国県補助を受けて平成19年度に実施した市内遺跡発掘調査報告書で、市内14地点（事業）において試掘・確認調査を実施したものを掲載した。

2．調査主体　都城市教育委員会
　　教育長　　玉利　譲
　　教育部長　　岩﨑　透
　　文化財課長　高野隆志
　　主　幹　　新宮高弘（文化財担当）
　　副主幹　　矢部喜多夫（埋蔵文化財担当）
　　調査担当　　栗山葉子　近沢恒典　山下大輔

3．本書に使用したトレンチ配置図、土層断面図の実測、製図等は、各試掘・確認調査担当者が行い、遺物の実測、製図は奥利根子、福岡八重子、水元美紀子が行った。

4．現場の写真撮影は、各調査担当者が行った。

5．出土遺物は都城市教育委員会にて保管している。

6．本書の執筆・編集は各担当者の結果報告を基に、矢部、近沢があたった。

本文目次

1．試掘・確認調査の記録 …… 1

公共事業

① 横尾原遺跡(大岩田町) …… 3
② 太郎坊中原遺跡(太郎坊町) …… 4
③ 中尾第２遺跡(安久町) …… 5
④ 田谷･尻枝遺跡(南横市町) …… 6
⑤ 払川地区
　1 女橋遺跡(今町) …… 7
　2 梅北針谷遺跡(梅北町) …… 8
　3 大岩田上村遺跡(大岩田町) …… 9
　4 上針谷・下針谷遺跡(梅北町) …… 10
⑥ 八幡城遺跡(五十町) …… 12

民間開発

⑦ 田谷・尻枝遺跡(南横市町) …… 14
⑧ 尾曲遺跡(早水町) …… 16
⑨ 佐土ヶ中第１遺跡(丸谷町) …… 18
⑩ 向原第２遺跡(立野町) …… 21
⑪ 久玉遺跡(郡元町) …… 23
⑫ 和田遺跡(南横市町) …… 24
⑬ 池原遺跡(蓑原町) …… 25
⑭ 乙房町満永地区 …… 26

報告書抄録 …… 28

1．試掘・確認調査の記録

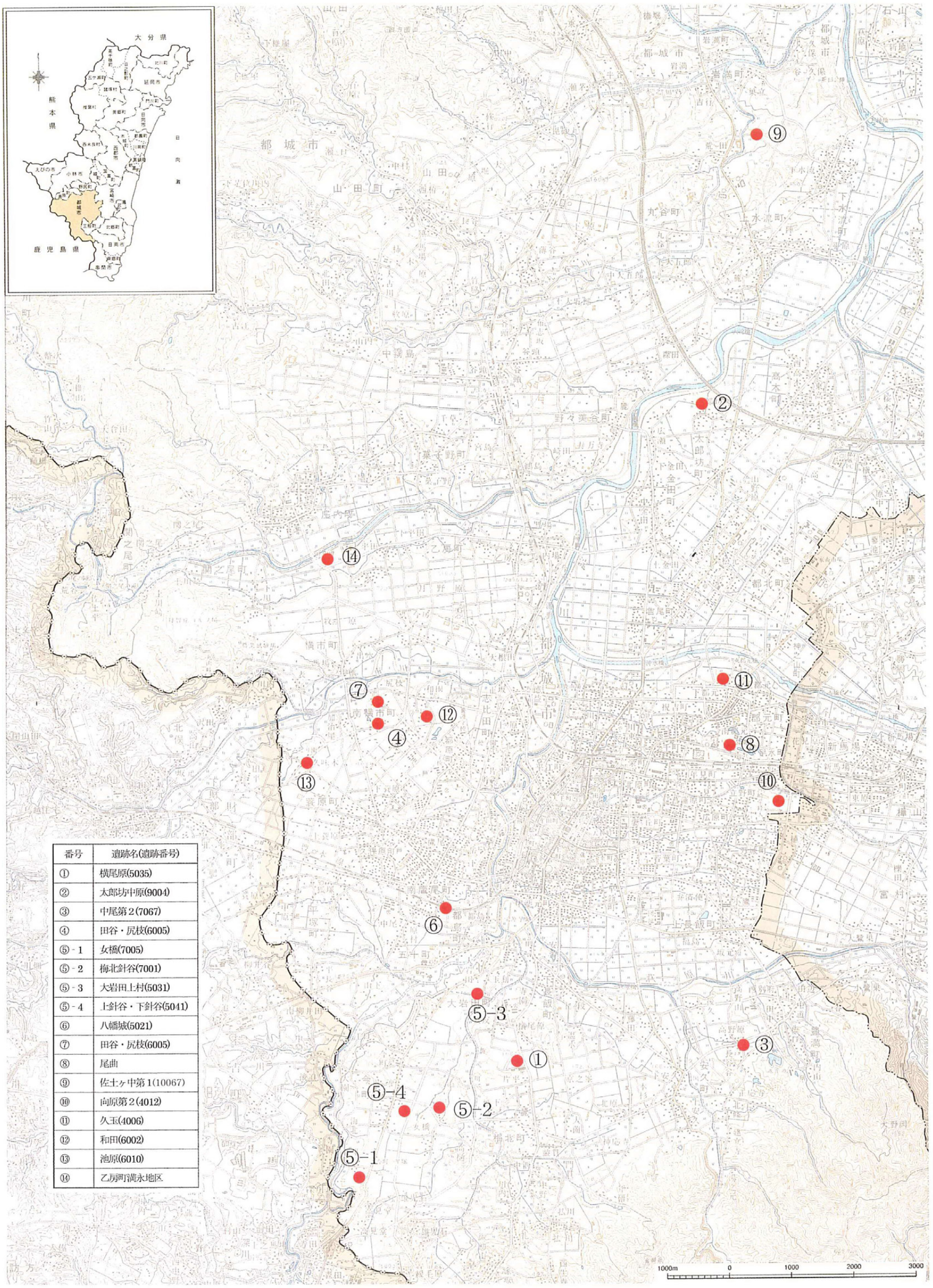
都城市は宮崎県の南西部に広がる都城盆地に位置し、北西に霧島連山、東に鰐塚山系に囲まれ、南側が開けて鹿児島県境を経て志布志湾を望む。盆地は都城市、北諸県郡三股町と鹿児島県曽於市の一部が含まれ、当市の面積はおおよそ653ｋ㎡と広く、標高は最高（高千穂山頂）で1,574m、最低（高城町四家の本八重）で56m、市街地で150mほどをはかる。河川は大淀川を含む７本の１級河川が葉脈状に流路し、それらに多数の小河川が流れ込み、地下水や湧水にも恵まれている。

本市は平成18年１月１日付けで旧都城市と北諸県郡の四町(旧山之口町、旧高城町、旧高崎町、旧山田町)で合併を行い、鹿児島市、宮崎市に次ぐ人口規模で、農畜産業を中心とした南九州の拠点都市である。

平成19年度、公共事業や民間開発等の各種開発事業にともない、都城市教育委員会が国県の補助を受けて実施した14件(事業)の試掘・確認調査を報告する。

番号	遺跡名(遺跡番号)	所在地	調査原因	調査期間	調査面積
①	横尾原(5035)	大岩田町 5795-2 ほか６筆	公園造成	2007.5.21～22	32 ㎡
②	太郎坊中原(9004)	太郎坊町 1209 番地	道路改良	2007.6.28	4.25 ㎡
③	中尾第２(7067)	安久町 2648 の２番地	校舎改築	2007.8.29	8 ㎡
④	田谷・尻枝(6005)	南横市町 3800 番地	屋内体育館改築	2007.8.30	12 ㎡
⑤-１	女橋(7005)	今町 7814 - 1、7823 - 1	県営畑地帯総合整備事業払川第１地区(土層改良事業)	2007.9.12～14	12 ㎡
⑤-２	梅北針谷(7001)	梅北町 774 - 1，２		2007.9.12～14	12 ㎡
⑤-３	大岩田上村(5031)	大岩田町 6851 - 5		2007.11.20～21	12 ㎡
⑤-４	上針谷・下針谷(5041)	梅北町 588 - 1		2007.11.20～21	12 ㎡
⑥	八幡城(5021)	五十町 1054 - 1、1058 - 1	道路改良	2007.10.9	18.5 ㎡
⑦	田谷・尻枝(6005)	南横市町 3918 - ３ほか３筆	宅地造成	2007.5.15	44.5 ㎡
⑧	尾曲	早水町 4503 - １の一部	宅地造成	2007.5.28	29 ㎡
⑨	佐土ヶ中第１(10067)	下水流町 4526 - １ほか２筆 下水流町 4495 - 1、4501 - 1	農業関連	2007.6.21～22 2007.10.4～5	24 ㎡ 24 ㎡
⑩	向原第２(4012)	立野町 3727 番１ほか	大学建設	2007.7.25～26	44 ㎡
⑪	久玉(4006)	郡元町４丁目９番１ほか１筆	アパート建設	2007.8.23	8 ㎡
⑫	和田(6002)	南横市町 4181 - ２ほか８筆	宅地造成	2007.9.21、10.9	11 ㎡
⑬	池原(6010)	蓑原町 1873 番地２	宅地造成	2007.10.22	24 ㎡
⑭	乙房町満永地区	乙房町 4102 番地ほか 10 筆	工場建設	2007.11.13～14	40 ㎡

平成 19 年度市内遺跡試掘確認調査地一覧表



番号	遺跡名(遺跡番号)
①	横尾原(5035)
②	太郎坊中原(9004)
③	中尾第２(7067)
④	田谷・尻枝(6005)
⑤-１	女橋(7005)
⑤-２	梅北針谷(7001)
⑤-３	大岩田上村(5031)
⑤-４	上針谷・下針谷(5041)
⑥	八幡城(5021)
⑦	田谷・尻枝(6005)
⑧	尾曲
⑨	佐土ヶ中第１(10067)
⑩	向原第２(4012)
⑪	久玉(4006)
⑫	和田(6002)
⑬	池原(6010)
⑭	乙房町満永地区

平成19年度市内遺跡試掘確認調査地

① 横尾原遺跡 (5035)

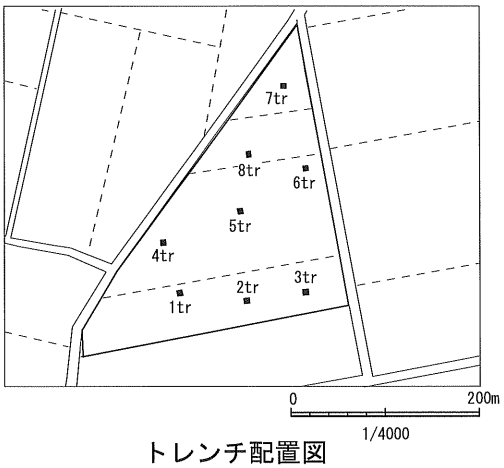
所 在 地　都城市大岩田町5795-2ほか６筆
調査原因　公園造成
調査期間　2007.5.21～22
調査面積　32㎡（対象面積：9,400㎡）
担 当 者　近沢恒典
処　　置　工事着手

位置と環境　調査地は都城市南部、梅北台地と呼ばれるシラス台地面、標高168mほどに立地する。周辺では、北に黒土遺跡、南西に梅北城跡、南に尾崎第１遺跡（貴船寺跡）や尾崎第２遺跡等が点在する。

試掘結果　８箇所に試掘トレンチを設定した。調査区域全体に東西方向のトレンチャーによる撹乱が見られた。土層の堆積状況から旧地形は調査区域の北側及び南側付近が高く中央付近が東西方向にやや低くなるようである。いずれのトレンチからも遺構は確認されず、遺物は４トレンチで土師器小片２点が出土したのみである。

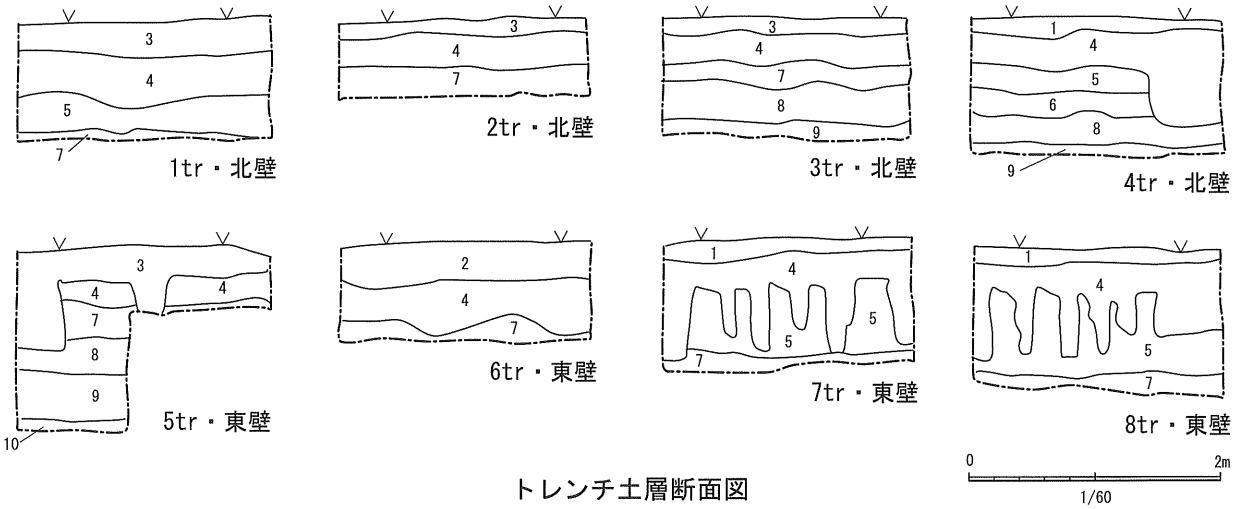
まとめ　該地は周知の埋蔵文化財包蔵地内に位置するため、土木工事等を行う場合、文化財保護法第94条第１項に基づく通知が必要となる。

調査区位置図



トレンチ配置図

1　造成土　芝生　シラス多量
2　造成土
3　耕作土
4　黒褐色シルト　しまり強　橙色軽石ごく少量　木根少量
5　黒色シルト　しまり弱　橙色軽石ごく少量
6　黒色シルト　しまりやや強　橙色軽石少量
7　御池軽石
8　黒色シルト
9　アカホヤ火山灰
10　黒褐色シルト　しまり強　硬質　橙色軽石ごく少量



トレンチ土層断面図

② 太郎坊中原遺跡 (9004)

所 在 地　都城市太郎坊町1209番地
調査原因　道路改良（道路拡幅）
調査期間　2007.6.28

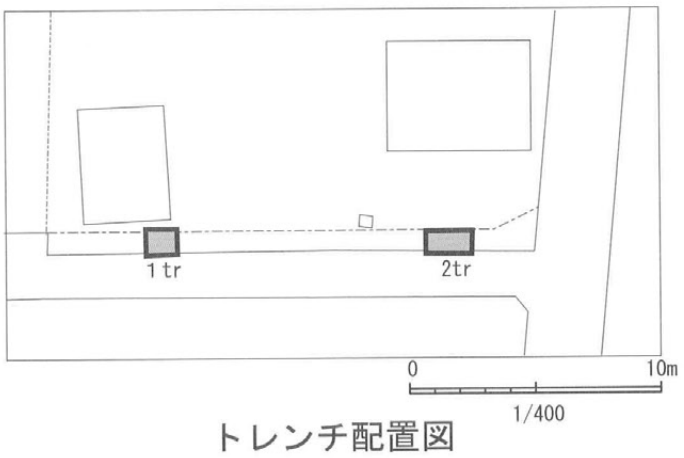
調査面積　4.25㎡（対象面積：32.1㎡）
担 当 者　栗山葉子
処　　置　工事着手

位置と環境　調査地は都城市の北部、高木原扇状地北側縁辺、標高135mほどに位置する。該地の北には沖積地が広がり、その先に大淀川を望む。同扇状地南西縁辺に国指定史跡大島畠田遺跡が、北東に並木添遺跡が点在する。

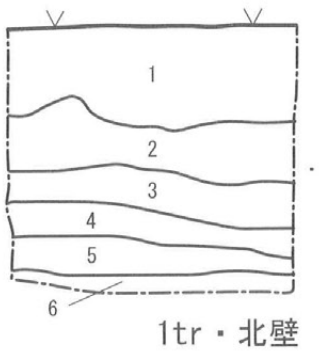
試掘結果　２箇所にトレンチ（1.5×1.5m、1×２m）を設定した。調査地点は現道より50cm程高い。この表層は近現代の盛土で、同層以下は御池軽石層まで良好な堆積が認められたが、遺構・遺物の出土はなかった。

まとめ　該地は周知の埋蔵文化財包蔵地内に位置するため、土木工事等を行う場合、文化財保護法第94条第１項に基づく通知が必要となる。

調査区位置図

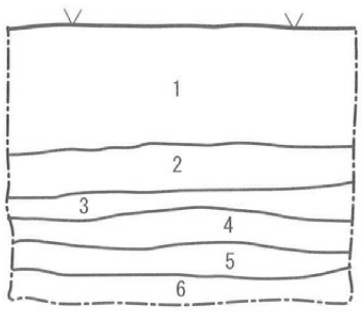


トレンチ配置図



1tr・北壁

1　表土　黒灰色砂質シルト
2　褐色砂質シルト
3　暗褐色粘質土
4　褐色粘質土
5　暗褐色粘土
6　御池軽石



2tr・北壁

0　2m
1/50

トレンチ土層断面図

1tr・堆積状況

③ 中尾第２遺跡 (7067)

所 在 地　都城市安久町2648の２番地
（安久小学校）
調査原因　校舎改築
調査期間　2007.8.29

調査面積　８㎡（対象面積：253㎡）

担 当 者　栗山葉子
処　　置　工事着手予定

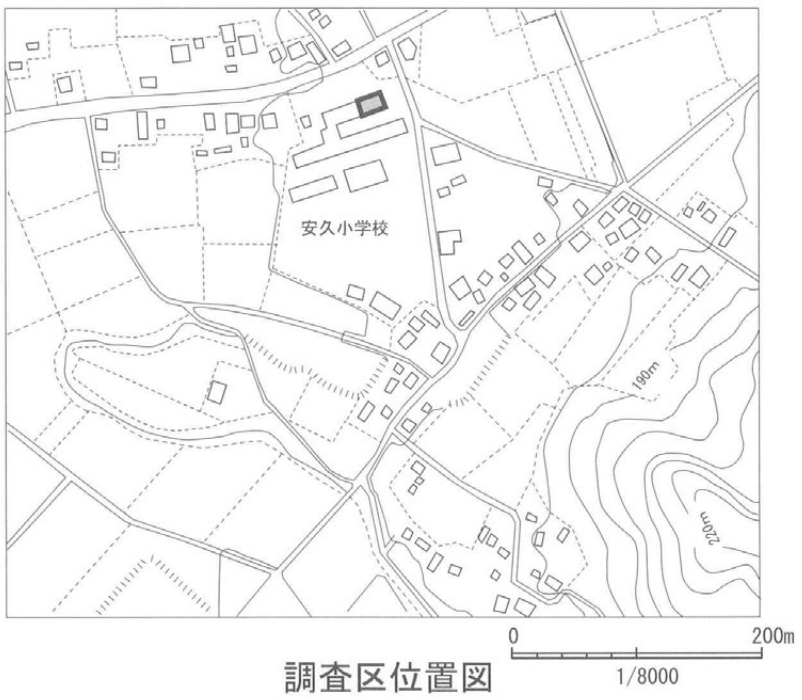
位置と環境　調査地は都城市南部、豊満扇状地上に位置し、眼前に大淀川の支流萩原川と沖積地を北望する標高167mほどに立地する。周辺では南側山麓に池平城跡、六ヶ城跡、北東に成山遺跡が点在する。

試掘結果　対象地は安久小学校内の校舎改築であるが、現況がコンクリート舗装のため、隣地にトレンチを２箇所設定した。

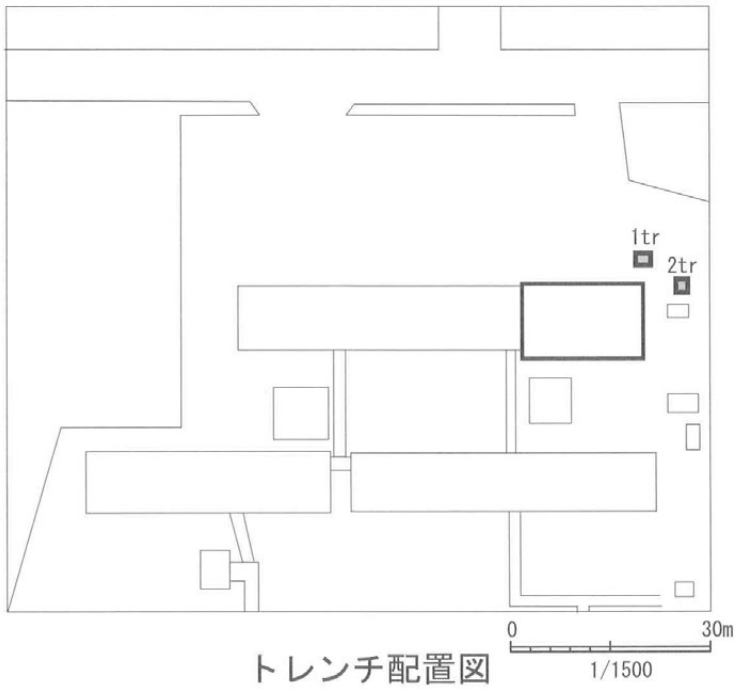
１トレンチでは、地表面下40cmまで盛土、以下灰褐色粘質土、褐色粘質シルト、灰褐色粘質土、褐色砂質土、砂層、砂礫層を確認した。遺構・遺物の出土はなく、土層の堆積状況から旧河川であったと考えられる。

２トレンチでも灰褐色粘質土の上に灰黒色土（旧水田基盤？）と文明軽石が観察できた。

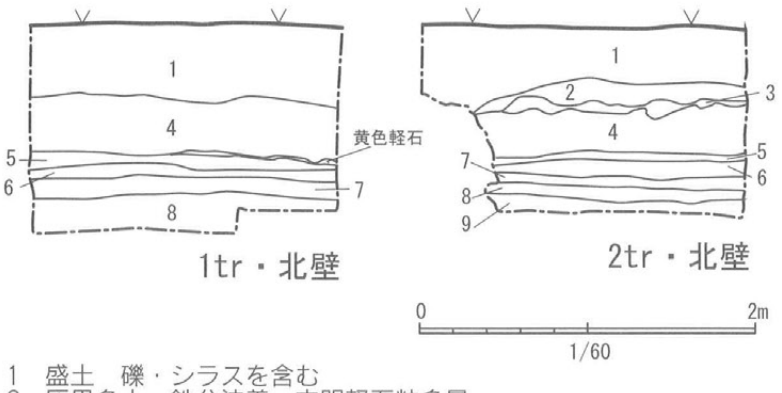
まとめ　該地は旧河川で、遺構・遺物も確認されないことから、土木工事等については問題ない。ただし、該地は周知の埋蔵文化財包蔵地内に位置するため、土木工事等を行う場合、文化財保護法第94条第１項に基づく通知が必要となる。



調査区位置図

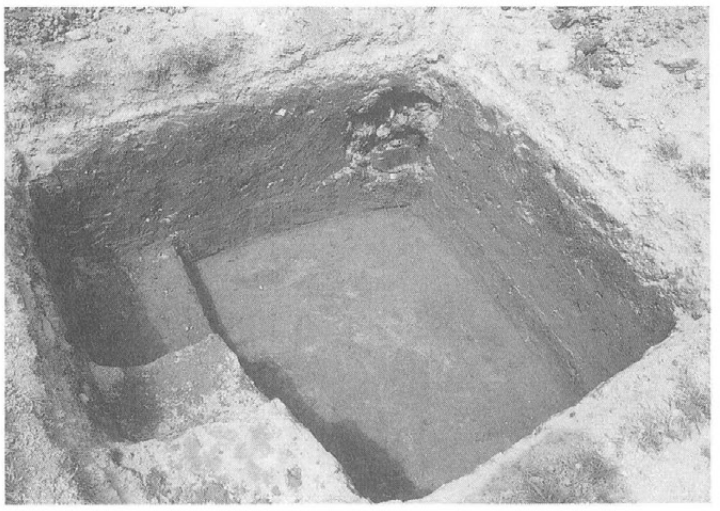


トレンチ配置図



1　盛土　礫・シラスを含む
2　灰黒色土　鉄分沈着・文明軽石粒多量
3　文明軽石
4　灰褐色粘質土　文明・御池軽石を含む　下部は御池軽石多量
5　褐色粘質シルト　文明・御池軽石を含む
6　灰褐色粘質土　文明・御池軽石を含む
7　褐色砂質シルト　御池軽石を含む
8　砂層
9　砂礫層

トレンチ土層図


1tr

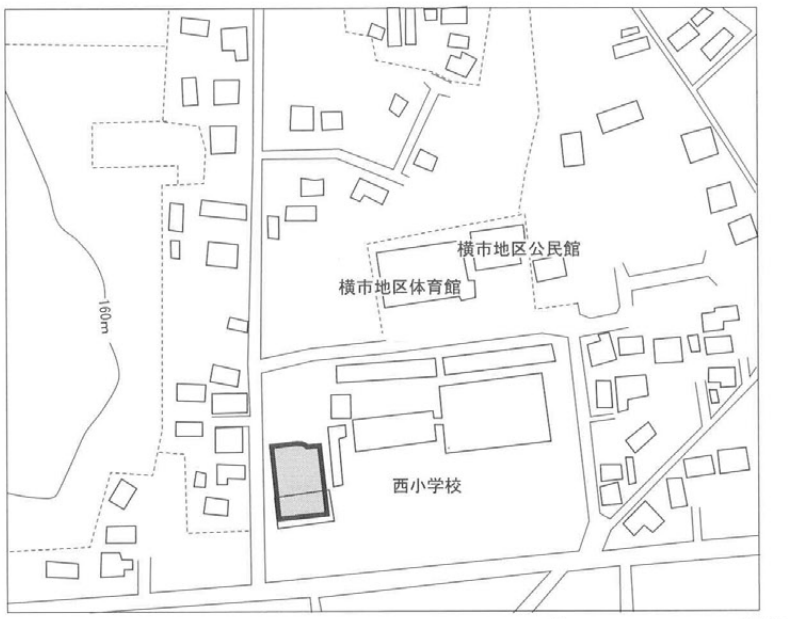
④ 田谷（たたに）・尻枝（しりえだ）遺跡 (6005)

所 在 地　都城市南横市町3800番地(西小学校)
調査原因　屋内体育館改築
調査期間　2007.8.30
調査面積　12㎡（対象面積：723㎡）
担 当 者　栗山葉子
処　　置　工事着手予定

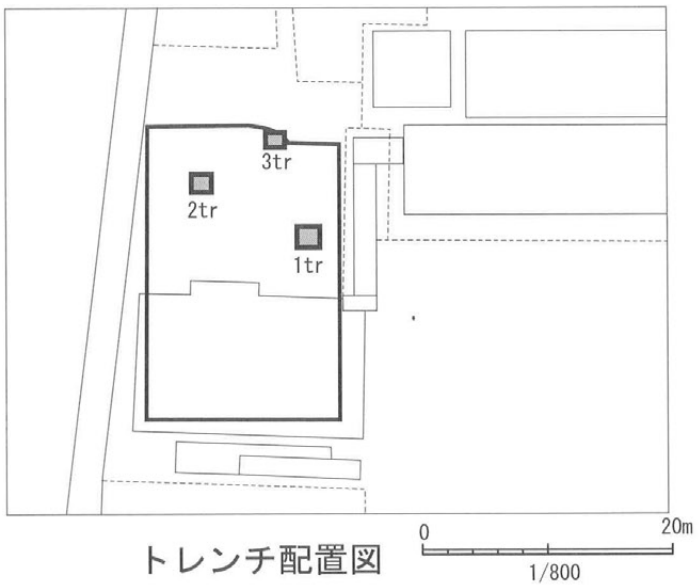
位置と環境　調査地は市街地西部を形成する蓑原台地の北側縁辺、標高161mほどに位置する。周辺には、北側台地縁に田谷・尻枝遺跡、北側の河岸段丘面には横市地区遺跡群である星原遺跡、平田遺跡、早馬遺跡等がみられる。

試掘結果　調査はトレンチ法を用い、２×２mのトレンチを3箇所設定した。１トレンチは盛土25cm、以下、文明軽石、黒色土、黒褐色土、暗褐色土、御池軽石、(漆)黒色土、アカホヤ火山灰層の順で堆積が認められた。文明軽石層下の黒色土層より縄文土器２点が出土したが、遺構は確認されなかった。２トレンチは盛土50cm、以下、黒褐色土、暗褐色土、御池軽石層と堆積が続くが、遺構・遺物の出土なし。３トレンチは盛土20cm、表土30cm、その下に黒色土、黒褐色土、暗褐色土、御池軽石層と堆積している。黒色土層より弥生土器と思われる土器片2点出土。

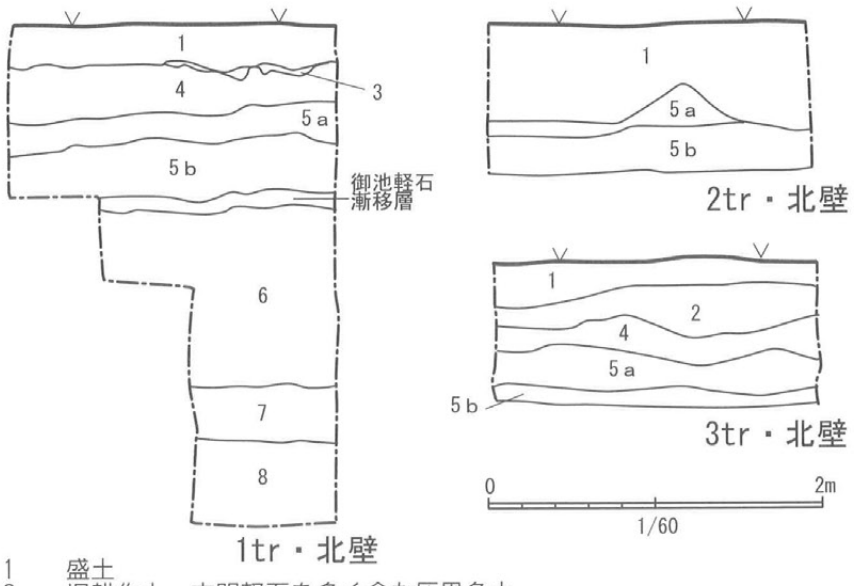
まとめ　対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地田谷・尻枝遺跡の隣接地である。１・３トレンチより土器が出土しているため、同遺跡が対象地まで拡がると思われるが、出土遺物も僅かで、遺構も検出されないことから、遺跡の端に位置し、遺物も流れ込みと判断する。該地は周知の埋蔵文化財包蔵地内に含まれるため、土木工事等を行う場合、文化財保護法第94条第１項に基づく通知が必要となる。



調査区位置図

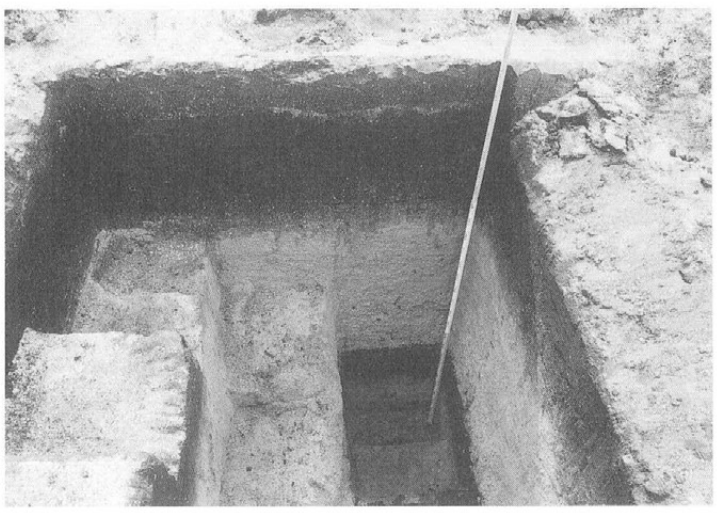


トレンチ配置図



1　盛土
2　旧耕作土　文明軽石を多く含む灰黒色土
3　文明軽石
4　黒色粘質土　御池軽石をほとんど含まない
5a　黒褐色粘質土　御池軽石を含む
5b　暗褐色粘質土　御池軽石多量
6　御池軽石
7　黒色粘質土
8　アカホヤ火山灰

トレンチ土層断面図


1tr：堆積状況

⑤-1 女橋（おなばし）遺跡 (7005)

所 在 地　都城市今町7814-1、7823-1
調査原因　県営畑地帯総合整備事業土層改良事業
　　払川第１地区
調査期間　2007.9.12～14

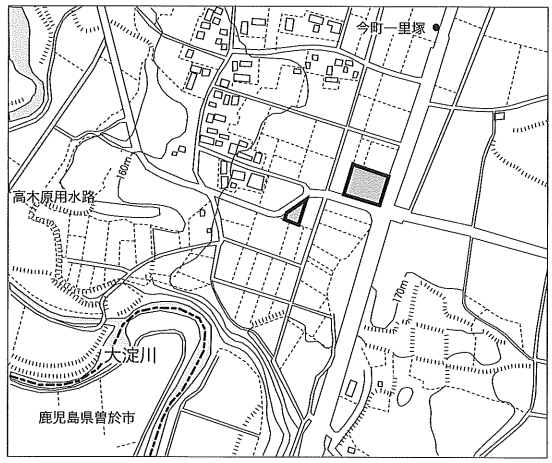
調査面積　12㎡（対象面積：2,300㎡）
担 当 者　近沢恒典

処　　置　事業着手

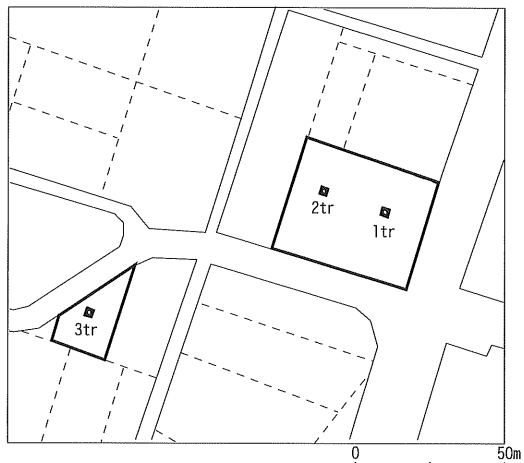
位置と環境　調査地は都城市南部、国道269号線西側隣地に位置し、成層シラス台地の梅北台地上の標高166mほどに立地する。周辺には国道269号線沿いに国指定史跡今町一里塚や五十市式縄文土器が出土した宮尾・立野遺跡が点在する。

試掘結果　対象地に２×２ｍのトレンチを３箇所設定した。表土層から最大第13層の灰褐色シルト層まで確認した。各トレンチに地表面下80cmまでトレンチャーによる撹乱がみられたが、それ以下は良好な堆積状況であった。旧地形は１・２トレンチ（東）から３トレンチ（西）に傾斜している。いずれのトレンチからも遺構・遺物は確認されなかった。

まとめ　該地は周知の埋蔵文化財包蔵地内に位置するため、土木工事等を行う場合、文化財保護法第94条第１項に基づく通知が必要となる。

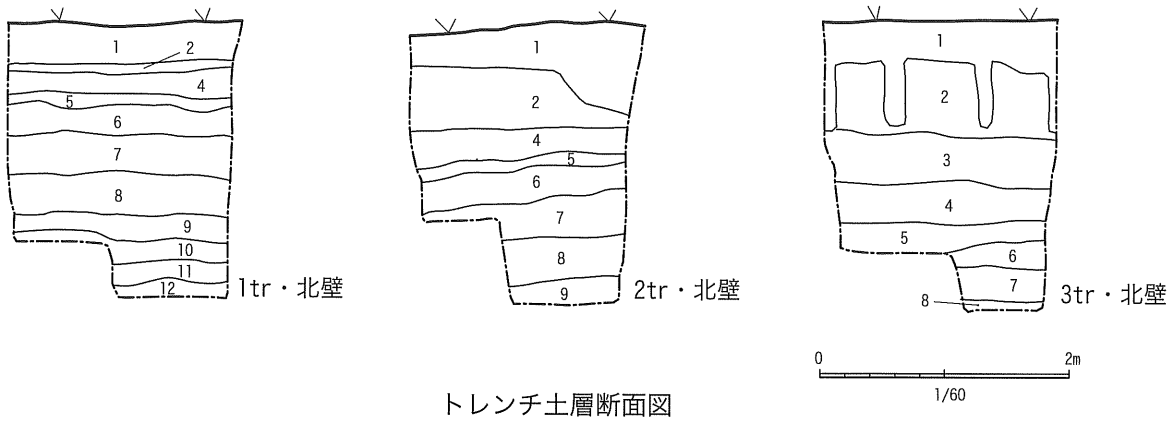


調査区位置図



トレンチ配置図

1　耕作土
2　造成土
3　黒色粘質シルト　しまりやや弱
4　黒褐色粘質シルト　しまり強（3層より固い）　御池軽石微量
5　黒褐色粘質シルト　しまり強　御池軽石少量
6　黒褐色粘質シルト　しまり強　御池軽石多量　（御池軽石層）
7　黒色粘質シルト
8　アカホヤ火山灰
9　黒色シルト　しまり強　非常に固い　橙色軽石ごく少量
10　黒褐色シルト　しまり強　非常に固い　橙色軽石多量　白色軽石ごく少量
11　黒褐色粘質シルト　しまり強　橙色軽石ごく微量
12　黒褐色粘質シルト　しまり強　11層よりも明るい　橙色軽石ごく微量
13　灰褐色シルト　しまり強　非常に固い



トレンチ土層断面図

⑤ - 2 梅北針谷遺跡 (7001)

うめ きた はり たに

所 在 地　都城市梅北町774 - 1、2
調査原因　県営畑地帯総合整備事業土層改良事業
　　払川第１地区
調査期間　2007.9.12～14

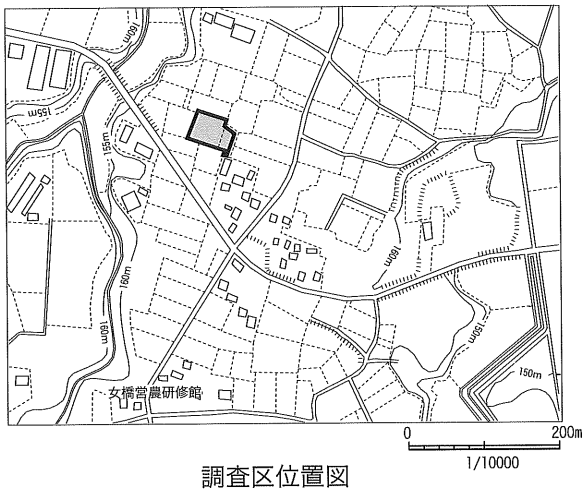
対象面積　12㎡（対象面積：2,088㎡）
担 当 者　近沢恒典

処　　置　事業着手

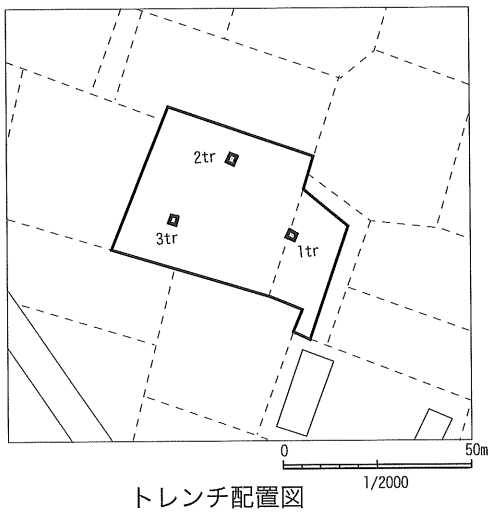
位置と環境　調査地は都城市南部、成層シラス台地の梅北台地上の標高162mほどに立地し、西には開析谷が迫っている。周辺には国道269号線沿いに国指定史跡今町一里塚や五十市式縄文土器が出土した宮尾・立野遺跡が点在する。

試掘結果　対象地に２×２ｍのトレンチを３箇所設定した。表土層から最大第12層の灰褐色シルト層まで確認した。各トレンチで地表面下80cmまでトレンチャーによる撹乱がみられたが、それ以下は良好な堆積状況であった。地表より１ｍ前後で御池軽石層、1.5mほどでアカホヤ層に達する。旧地形はほぼ平坦で、いずれのトレンチからも遺構・遺物は確認されなかった。

まとめ　該地は周知の埋蔵文化財包蔵地内に位置するため、土木工事等を行う場合、文化財保護法第94条第１項に基づく通知が必要となる。

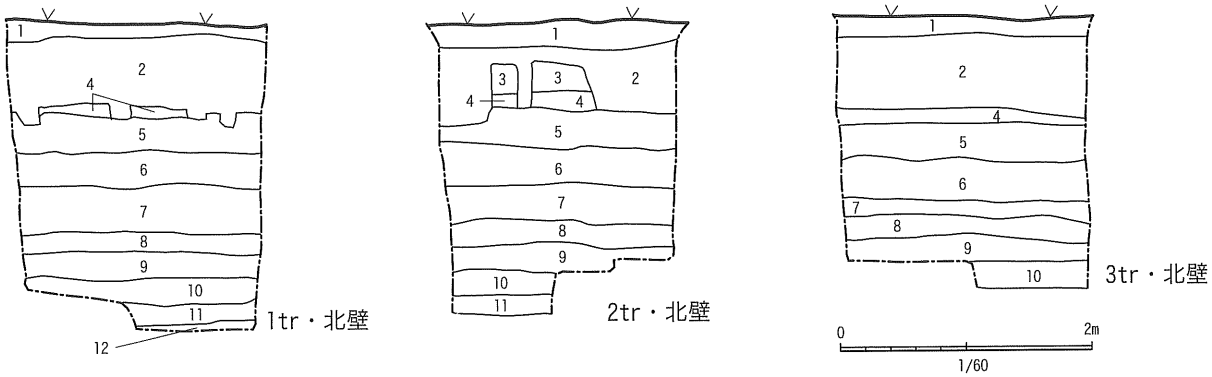


調査区位置図



トレンチ配置図

1　耕作土
2　耕作土2　トレンチャー
3　黒褐色シルト　しまり弱　御池軽石ごく微量
4　黒褐色シルト　しまり強　御池軽石少量
5　黒褐色シルト　しまり強　御池軽石多量　（御池軽石層相当）
6　黒色粘質シルト
7　アカホヤ火山灰
8　黒色シルト　しまり強　非常に固い　橙色軽石少量
9　黒褐色シルト　しまり強　非常に固い　橙色軽石多量　白色軽石ごく少量
10　黒褐色粘質シルト　しまり強　橙色軽石ごく微量
11　黒褐色粘質シルト　しまり強　10層よりも明るい　橙色軽石ごく微量
12　灰褐色シルト　しまり強　非常に固い



トレンチ土層断面図

⑤ - 3 大岩田上村遺跡（おおいわだかみむら） (5031)

所 在 地　都城市大岩田町6851-5
調査原因　県営畑地帯総合整備事業土層改良事業
　　払川第１地区
調査期間　2007.11.20～21

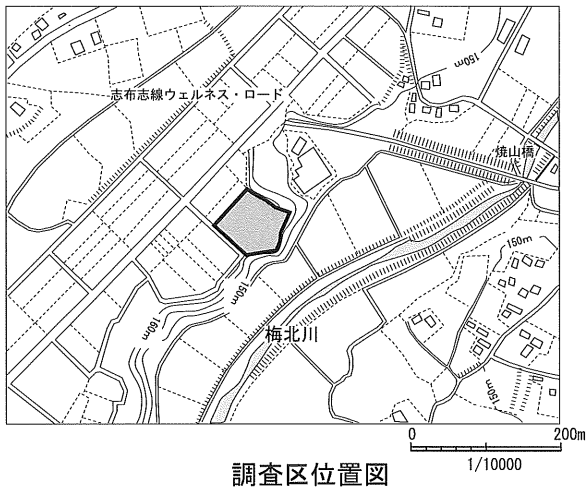
対象面積　12㎡（対象面積：5,273㎡）
担 当 者　近沢恒典

処　　置　事業着手

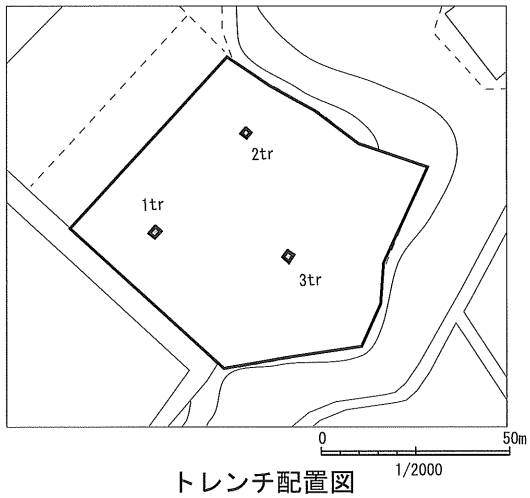
位置と環境　調査地は都城市南部、成層シラス台地の梅北台地南面東端、標高160mほどに立地する。東側は梅北川とその沖積地が広がる。周辺には対岸に黒土遺跡、西には五十市式縄文土器が出土した宮尾・立野遺跡が点在する。

試掘結果　対象地に２×２ｍのトレンチを３箇所設定した。表土層から最大第12層の暗褐色土層まで確認した。各トレンチとも耕作土直下の造成土が厚く、１、２、３トレンチで、各々1.2m、1.7m、1.5mを測る。その下位に旧表土が確認された。１トレンチでは地表下1.8mほどでアカホヤ層を、２トレンチでは同下2.5mほどで御池軽石層をそれぞれ確認した。また、３トレンチでは2.5m掘下げても御池軽石層に達しなかった。旧地形は西から東へ傾斜している。いずれのトレンチからも遺構・遺物は出土しなかった。

まとめ　該地は周知の埋蔵文化財包蔵地内に位置するため、土木工事等を行う場合、文化財保護法第94条第１項に基づく通知が必要となる。

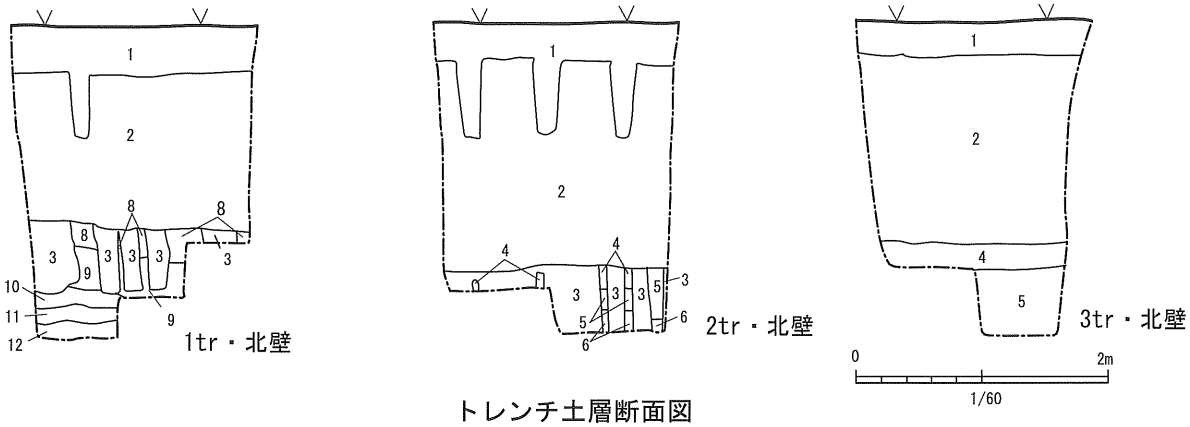


調査区位置図



トレンチ配置図

1　耕作土
2　造成土
3　旧表土
4　暗褐色土　しまり強
5　黒色土　しまり強　御池軽石ごく微量
6　黒色土　しまり強　御池軽石多量
7　御池軽石
8　黒色シルト
9　アカホヤ火山灰
10　黒褐色土　しまり強　非常に固い
11　黒褐色土　しまり強　黄色軽石（1～7mm）少量
12　暗褐色土　しまり強　黄色軽石（1～7mm）ごく少量



トレンチ土層断面図

⑤－４上針谷（かみはりたに）・下針谷（しもはりたに）遺跡 (5041)

所 在 地　都城市梅北町588－１
調査原因　県営畑地帯総合整備事業土層改良事業
　　払川第１地区
調査期間　2007.11.20～21

対象面積　12㎡（対象面積：2,935㎡）
担 当 者　近沢恒典

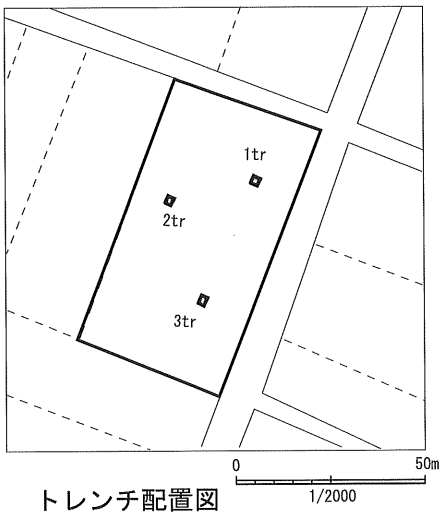
処　　置　事業着手

位置と環境　調査地は都城市南部、成層シラス台地の梅北台地上標高162mほどに立地し、東には開析谷が迫っている。周辺には国道269号線沿いに国指定史跡今町一里塚や五十市式縄文土器が出土した宮尾・立野遺跡が点在する。

試掘結果　対象地に２×２ｍのトレンチを３箇所設定した。表土層から最大第10層の暗褐色土層まで確認した。各トレンチとも地表から0.8～１ｍほどのトレンチャーによる撹乱を受けている。アカホヤ層は各トレンチで確認されたが、御池軽石層は３トレンチのみ明瞭に検出した。旧地形は西に向かって緩やかに傾斜している。いずれのトレンチからも遺構の出土はなかった。

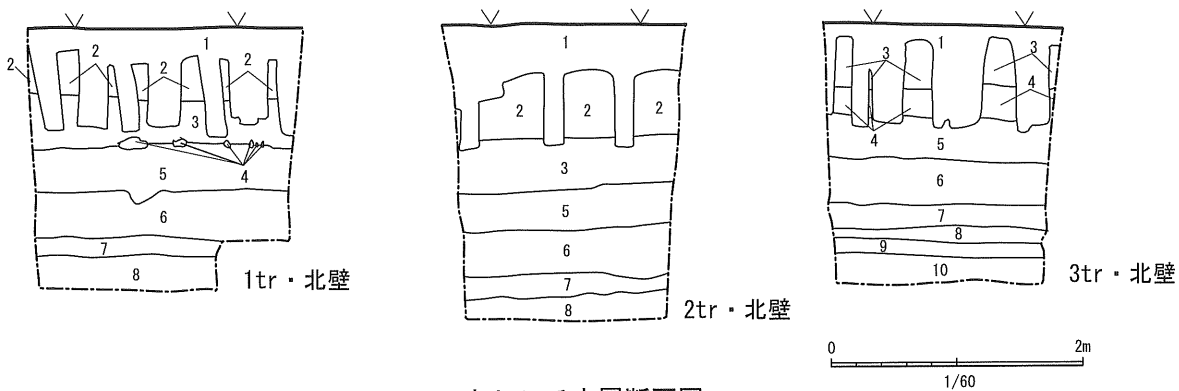
まとめ　該地は周知の埋蔵文化財包蔵地内に位置するため、土木工事等を行う場合、文化財保護法第94条第１項に基づく通知が必要となる。

調査区位置図

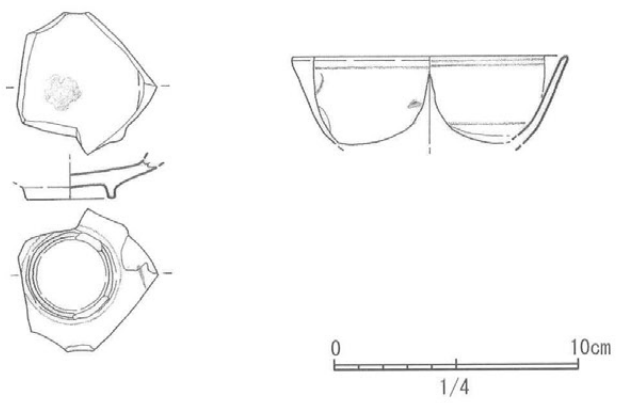


トレンチ配置図

1　耕作土
2　黒色土
3　黒色土　御池軽石多量
4　御池軽石
5　黒色シルト
6　アカホヤ火山灰
7　黒褐色土　硬質　黄色軽石（1～7mm）少量
8　黒褐色土　硬質　黄色軽石（1～7mm）多量
9　暗褐色土　黄色軽石（1～7mm）多量
10　暗褐色土

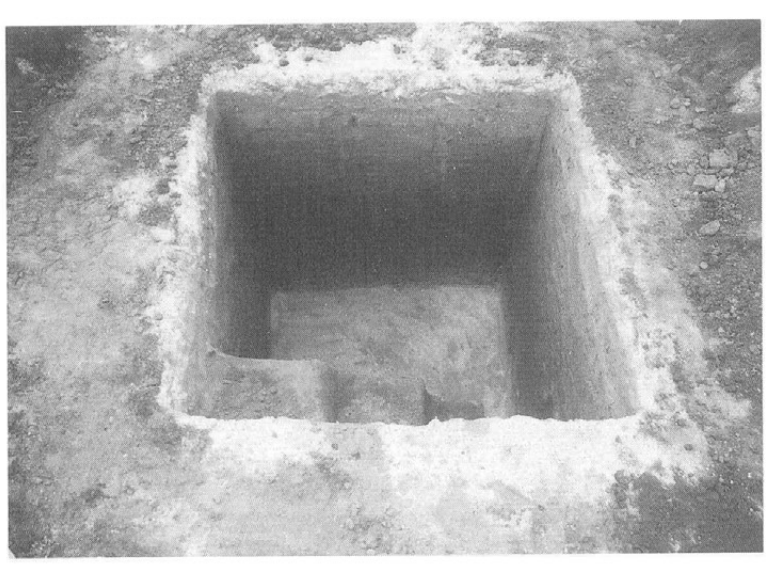


トレンチ土層断面図

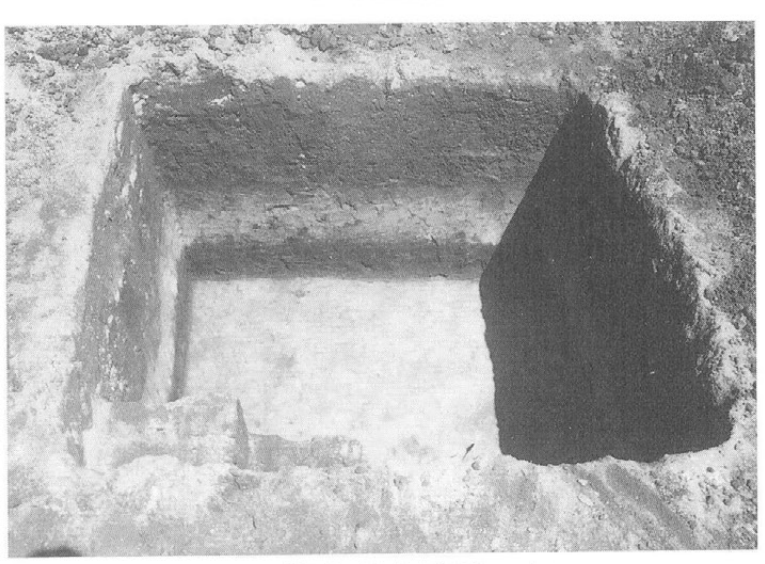


上針谷下針谷遺跡：2tr・出土遺物実測図

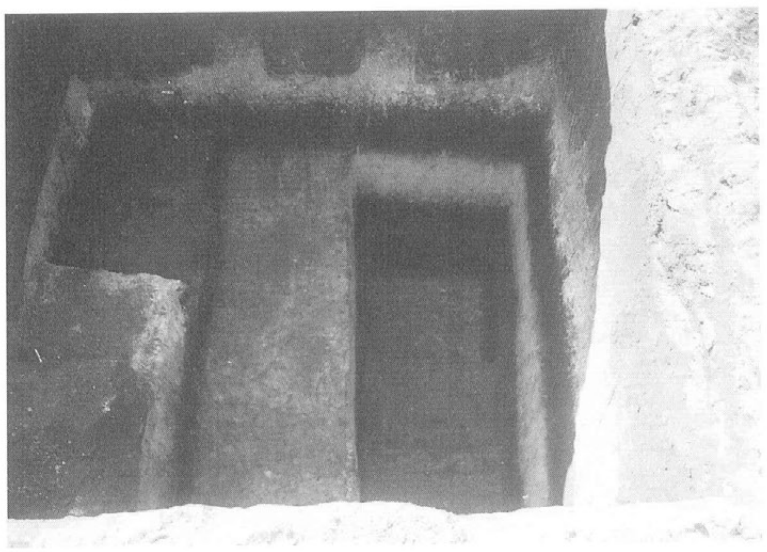
女橋遺跡：2tr



女橋遺跡：3tr



梅北針谷遺跡：1tr



梅北針谷遺跡：2tr

大岩田上村遺跡：1tr

上針谷・下針谷遺跡：1tr

上針谷・下針谷遺跡：3tr

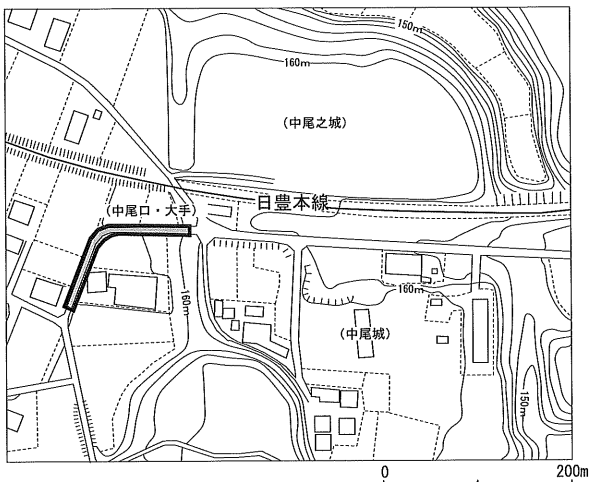
⑥八幡城遺跡 (5021)

所在地　都城市五十町1054-1、1058-1
調査原因　道路改良(道路拡幅)
調査期間　2007.10.9
調査面積　18.5㎡（対象面積：370㎡）
担 当 者　栗山葉子
処　　置　一部発掘調査

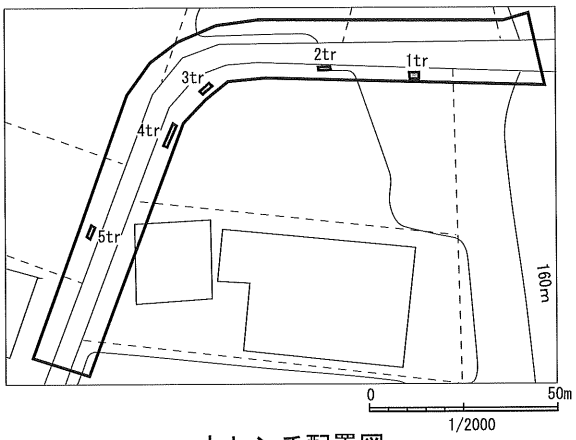
位置と環境　調査地は市街地西部を形成する蓑原台地の東縁、標高161mほどに立地する。また、該地は都城城域西端出入り口である中尾口(大手)の南西側隣接地に位置する。換言すれば、都城跡西側縁辺である。

試掘結果　道路拡幅に伴い、拡幅部分にトレンチを５箇所設定した。１、２トレンチでは表土、黒色粘質土、黒褐色粘質土、暗褐色粘質土、御池軽石、漆黒土と台地上の基本層序のとおりである。遺構・遺物の出土はない。３トレンチでは黒褐色粘質土層より掘り込まれた溝状遺構を検出し、陶磁器の出土もともなった。４トレンチでは表土直下で溝状遺構を確認し、掘り込みはアカホヤ層まで達している。陶磁器片出土。５トレンチでは御池軽石層が削平されており、遺構・遺物の出土はない。

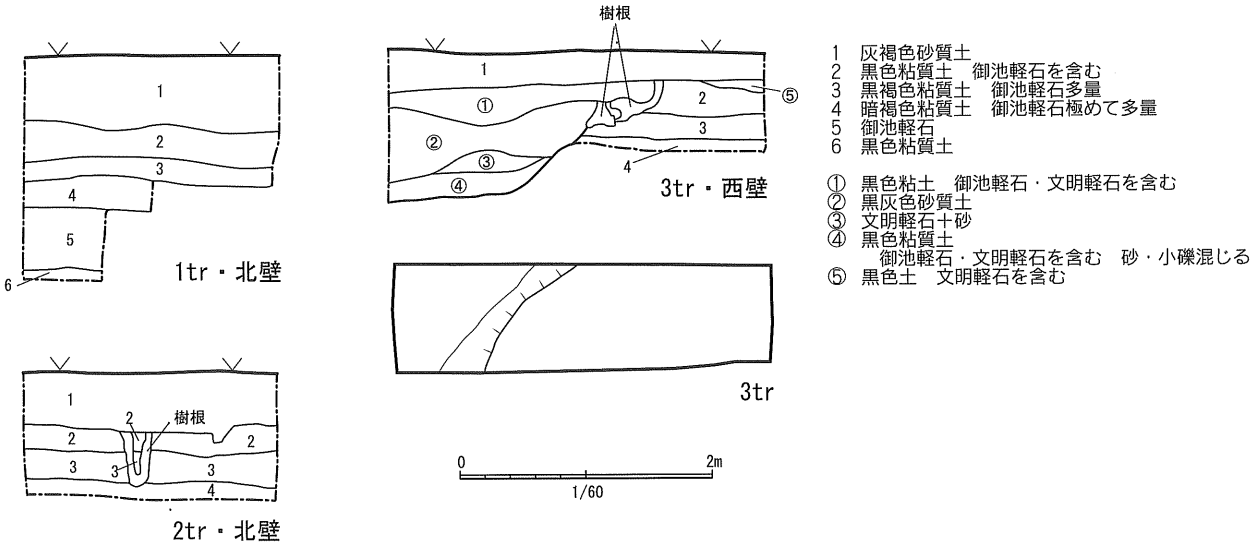
まとめ　対象地は東から西に高くなっている。溝状遺構は調査地中央付近で検出され、遺構の部位は現地表面より30cm下であるため、現道部分においても遺構は良好に遺存している。道路拡幅に際しては、工事着手前に発掘調査が必要である。



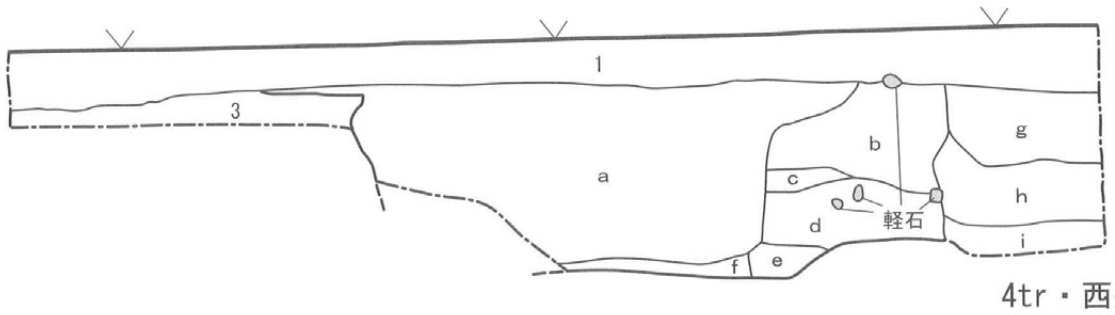
調査区位置図



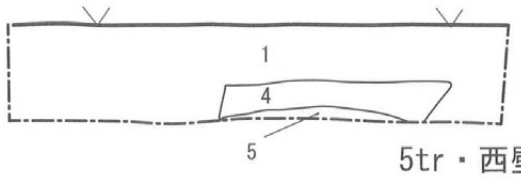
トレンチ配置図



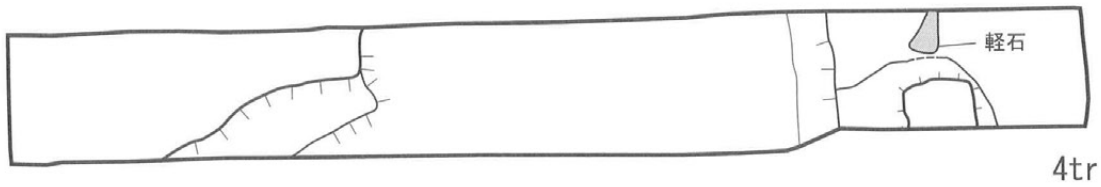
トレンチ土層断面図・平面図Ⅰ



4tr・西壁



5tr・西壁

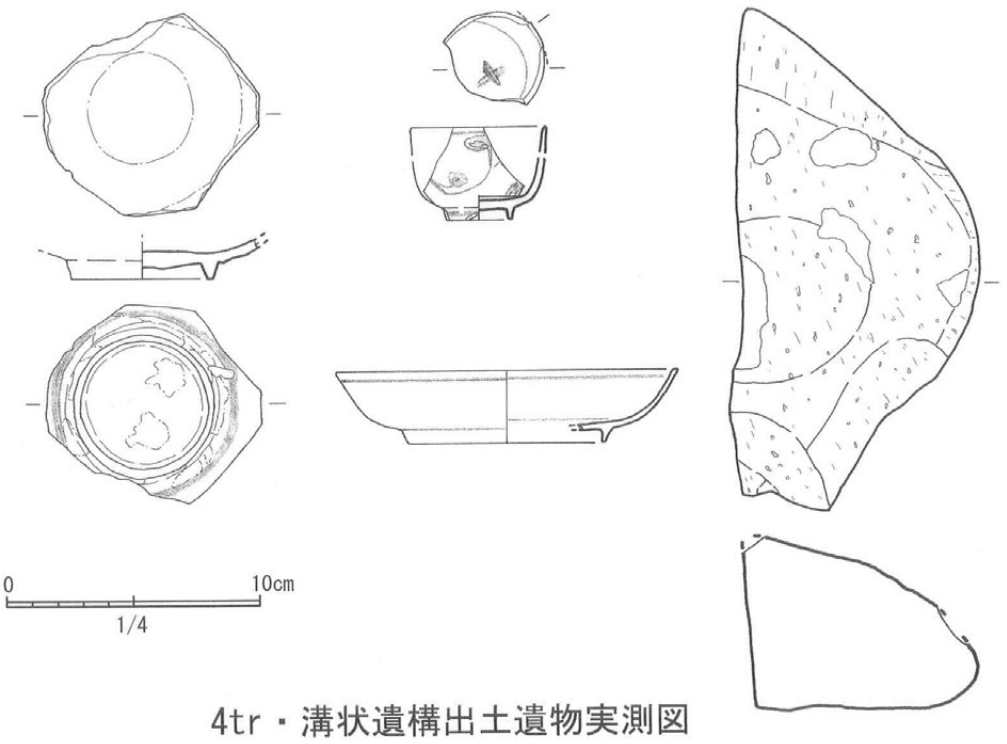


4tr

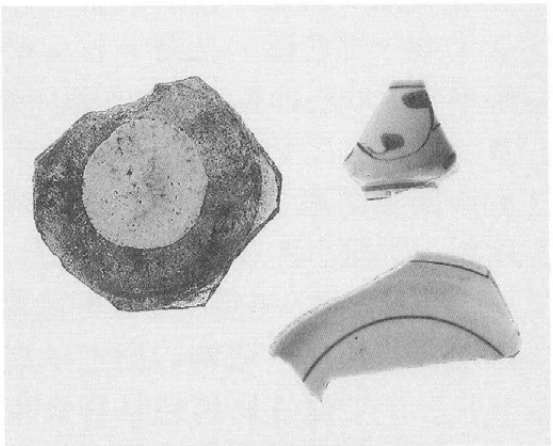
a　黒色土　文明軽石・御池軽石少量
b　黒色土　御池軽石ごく少量
c　文明軽石？
d　暗褐色土　御池軽石を含む
e　黒色粘質シルト
f　黒色土　アカホヤ火山灰を含む
g　黒色土
　御池軽石ブロック含む　文明軽石少量
h　黒色土
　御池軽石・黒色粘質シルトを含む
i　黒色土　しまり強　御池軽石少量

0　2m
1/60

トレンチ土層断面図・平面図Ⅱ

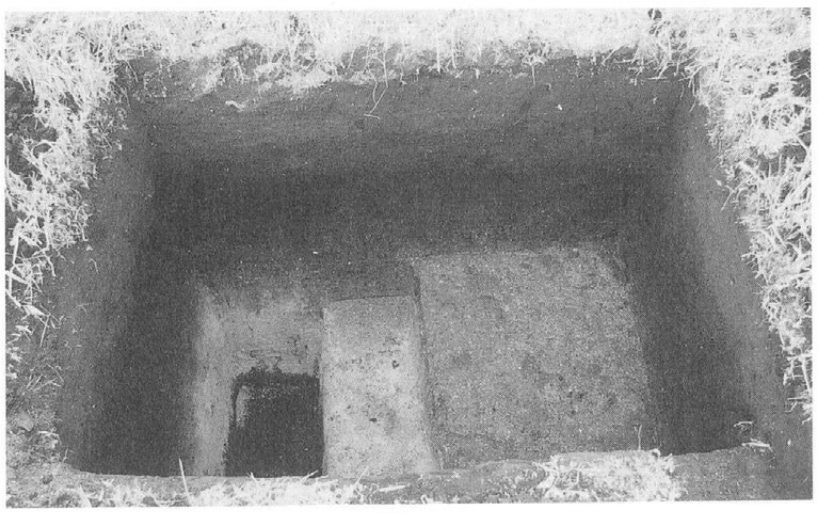


4tr・溝状遺構出土遺物実測図

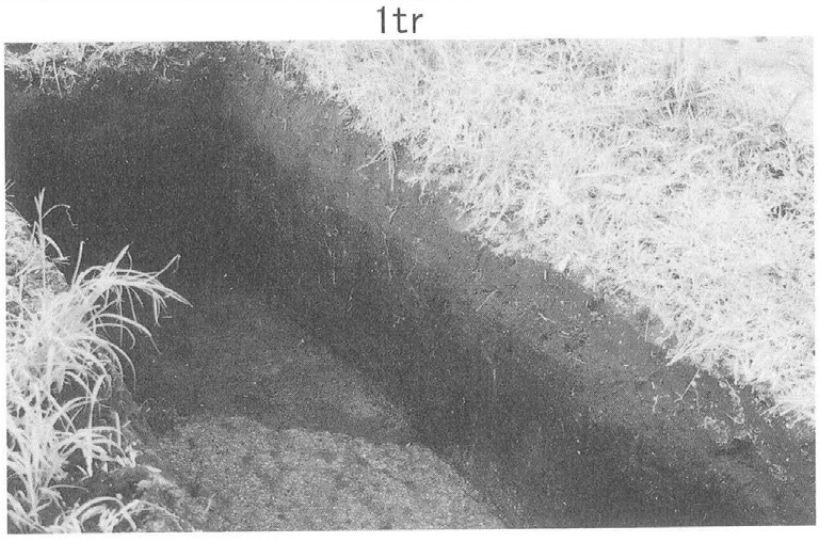


4tr・溝状遺構出土遺物

4tr・溝状遺構



1tr



3tr・溝状遺構

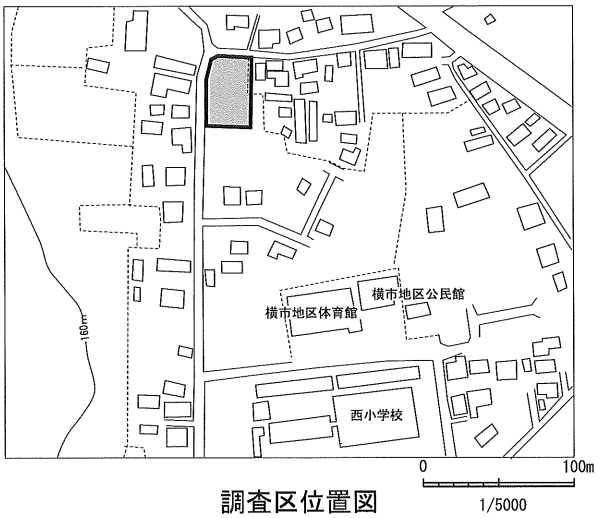
⑦ 田谷（たたに）・尻枝（しりえだ）遺跡 (6005)

所 在 地　都城市南横市町3918-3ほか３筆
調査原因　宅地造成
調査期間　2007.5.15
調査面積　44.5㎡（対象面積：1,448㎡）
担 当 者　栗山葉子
処　　置　工事着手

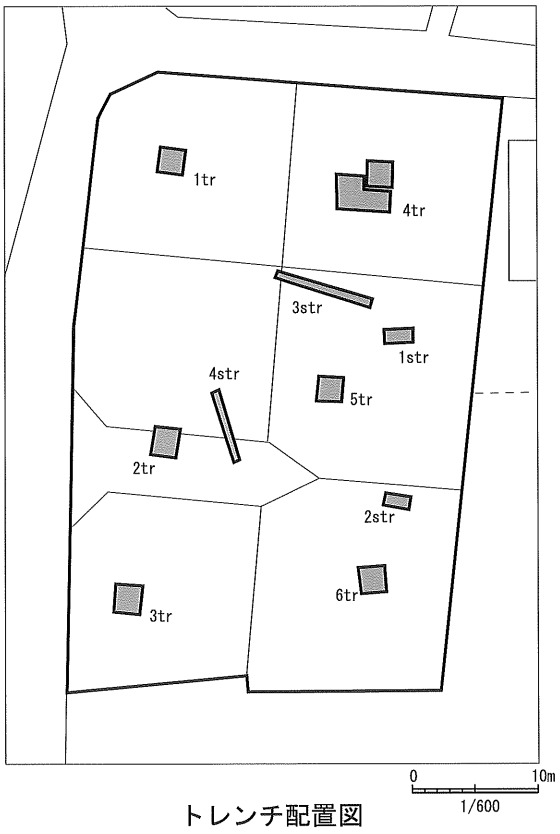
位置と環境　調査地は市街地西部を形成する蓑原台地の北側縁辺、標高161mほどに位置する。周辺には、北側台地縁に田谷・尻枝遺跡、北側の河岸段丘面には横市地区遺跡群である星原遺跡、平田遺跡、早馬遺跡等がみられる。

試掘結果　調査対象地に２×２ｍのトレンチを６箇所設定した。調査の結果、４トレンチの一部を除いた各トレンチで表土層が削平を受けたのち、盛土が20～60cmほど厚さで堆積している。１トレンチでは盛土による攪乱が激しく、遺構は確認できなかったが、土器小片３点が出土した。２・３トレンチでは、４～6層まで良好な堆積が認められたが、遺構・遺物の出土はなかった。４トレンチでは４層黒色粘質シルト中で南北方向に延びる硬化面を検出したため、トレンチを拡張し都合４本の硬化面を確認した。５、６トレンチではすでに４層が削平を受けていたため硬化面の走行を確認することはできなかったが、１層中に硬化面のブロックが認められた。また、走行確認のためサブトレンチを３箇所追加し、対象地中央付近で南北に延びる硬化面を部分的に確認したが、南側では削平を受けており視認することはできなかった。このほか、５トレンチとサブトレンチ２で５層および４層の落込み(柱穴)が認められた。

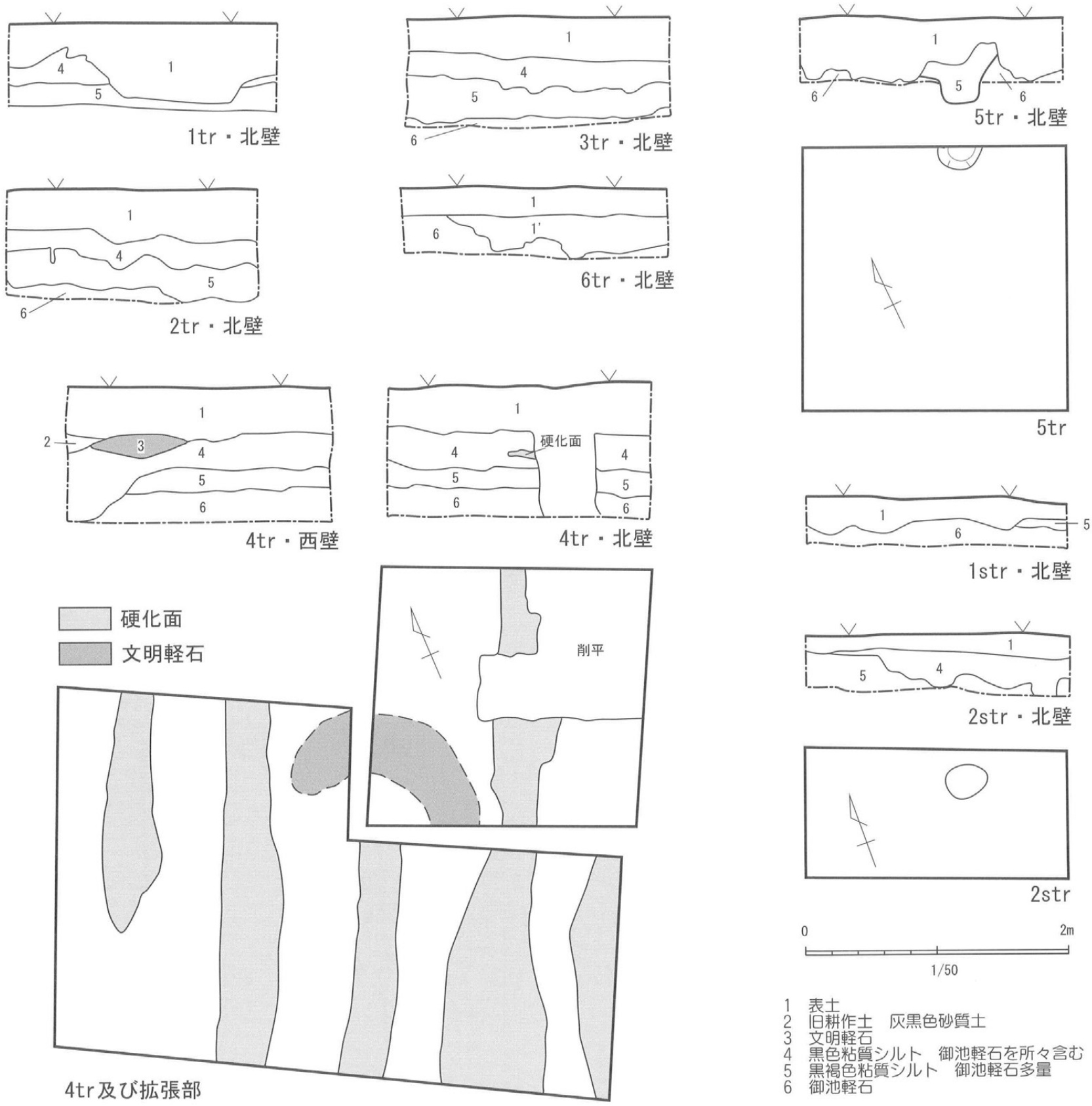
まとめ　地表面下40～50cmで遺構・遺物が出土している。文化財保護法第93条の規定に基づく届出が必要となり、遺構検出面深度を超える掘削工事等を行う場合、発掘調査が必要となる。



調査区位置図

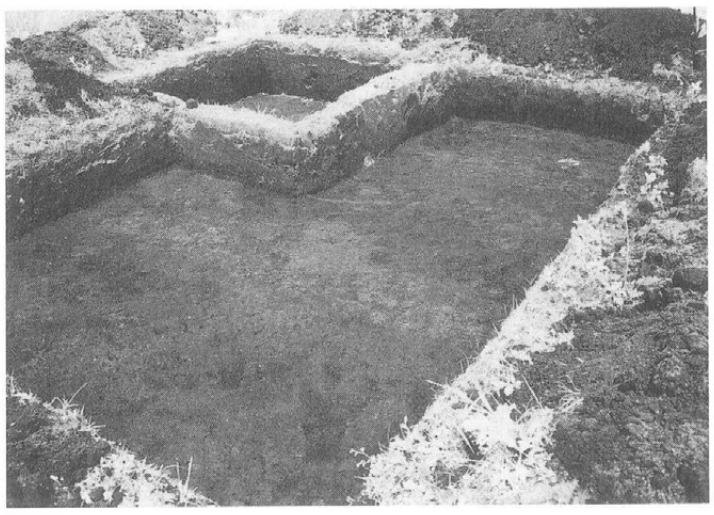


トレンチ配置図



トレンチ土層断面図・平面図

4tr・硬化面/文明軽石



4tr拡張部・硬化面

⑧ 尾曲（おまがり）遺跡

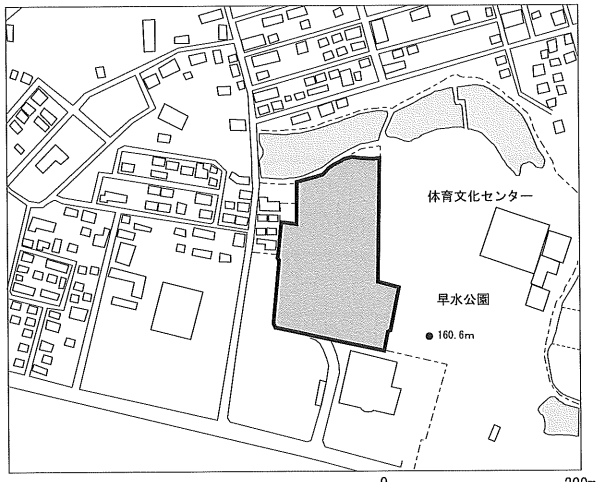
所 在 地　都城市早水町4503-1の一部
調査原因　宅地造成
調査期間　2007.5.28

調査面積　29㎡（対象面積：30,856㎡）
担 当 者　栗山葉子
処　　置　工事着手

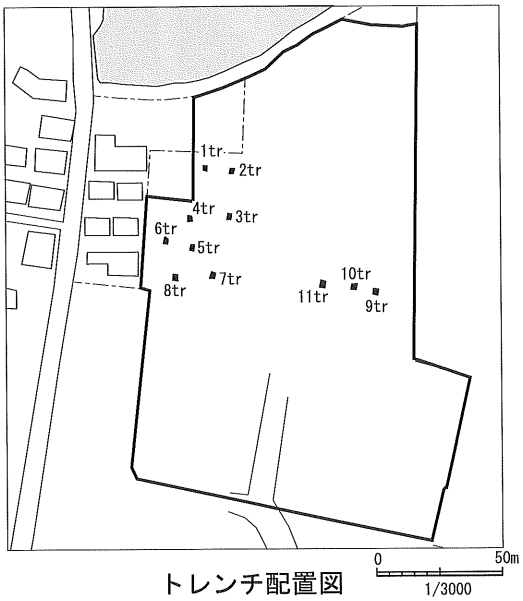
位置と環境　調査地は市街地を形成する一万城扇状地の北部に位置し、北側には北西に延びる旧河川と思われる谷地形が認められる。また、対象地の北側部分は牟田ノ上遺跡で平成２年～３年にかけて、発掘調査が実施されている。

試掘結果　１×２m、２×２mのトレンチをそれぞれ８箇所と３箇所設定した。対象地西側では地表面下0.5～１mほど砕石を含む盛土がなされており、１、５～８トレンチでは御池軽石層中まで削平されていた。２～４トレンチについては御池軽石層上の黒(褐)色粘質シルト層が良好に堆積していたが、遺構は認められなかった。遺物については３トレンチで３層から土師器小片が2点出土している。また、対象地東側では0.5～２mを超える盛土が認められた。11トレンチでは5層暗褐色粘質シルトの堆積は存在したが、遺構・遺物は認められなかった。９トレンチではアカホヤ火山灰層上位まで掘下げたが、遺構・遺物は出土しなかった。

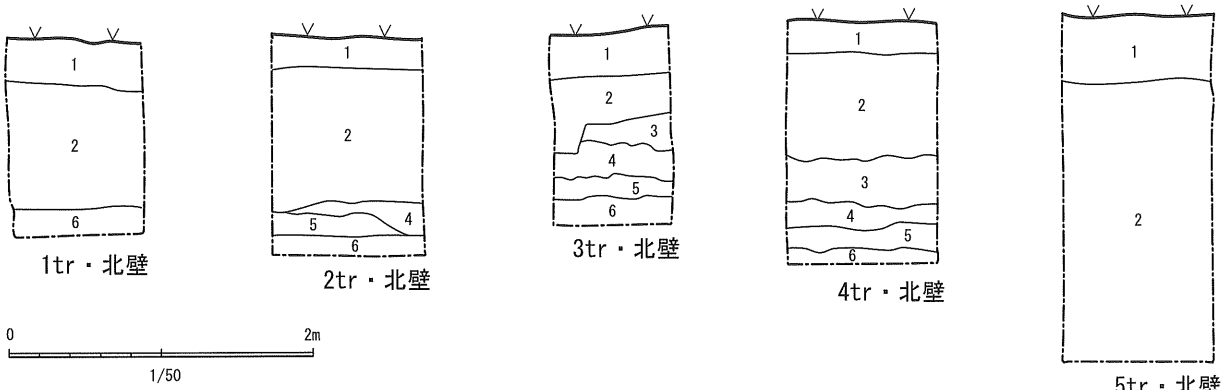
まとめ　対象地の大半は１m以上の削平を受けている。ただし、3トレンチ(対象地北西部)では地表面下70cmで中世の土師器が出土している。文化財保護法第93条の規定に基づく届出が必要であり、掘削工事等を行う場合協議の必要がある。



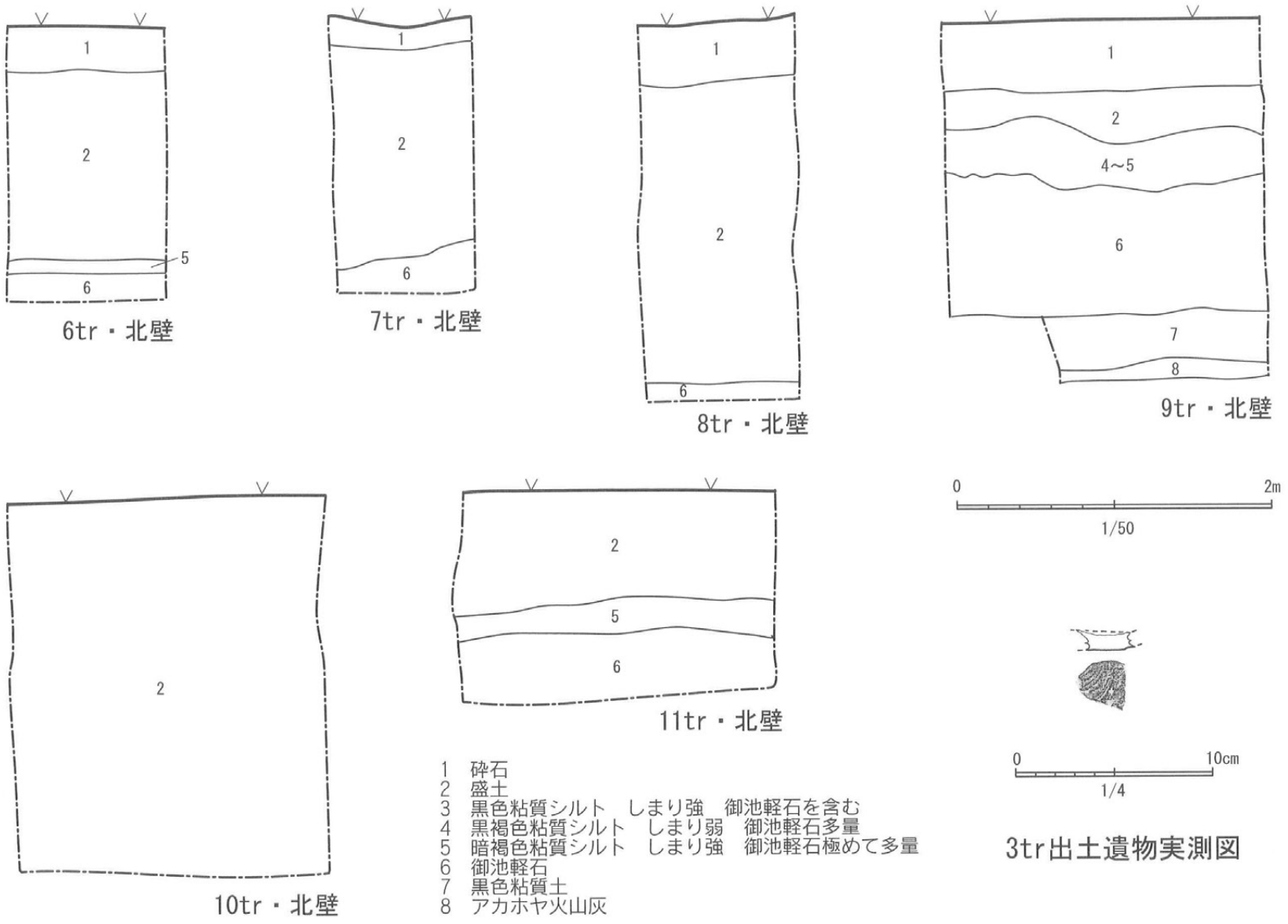
調査区位置図



トレンチ配置図

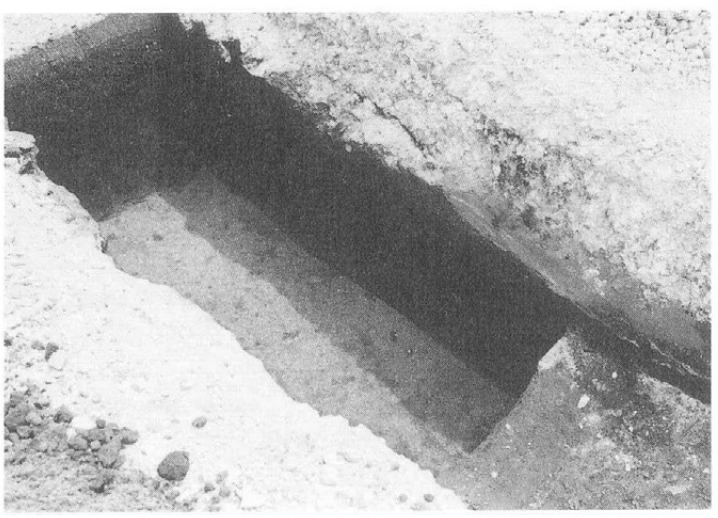


トレンチ土層断面図Ⅰ

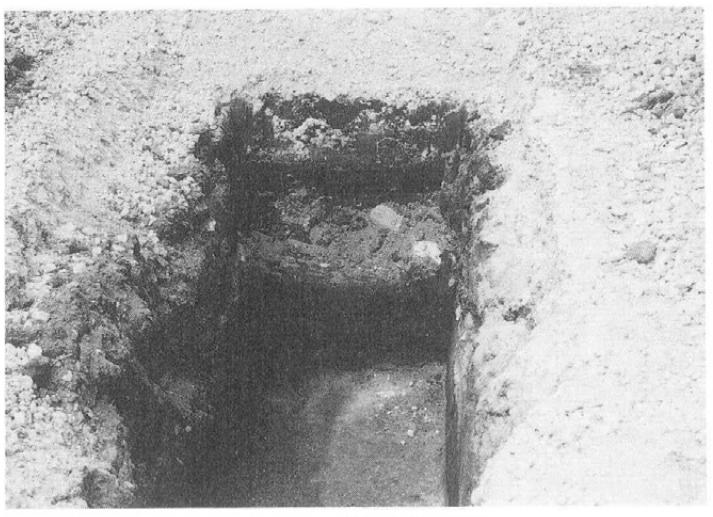


3tr出土遺物実測図

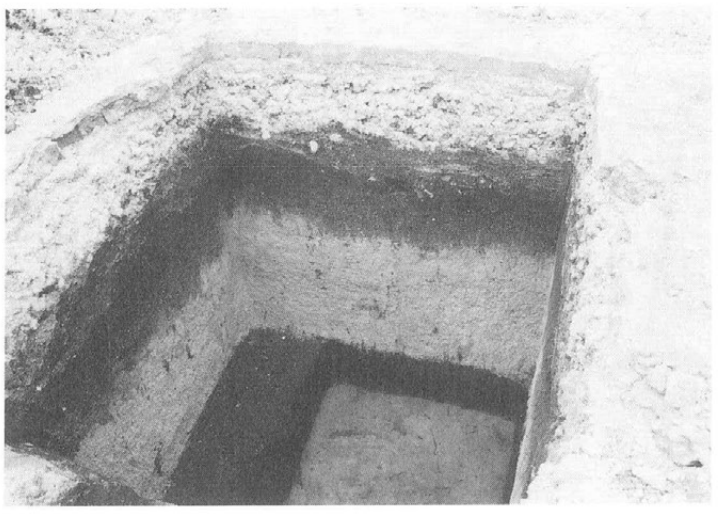
トレンチ土層断面図Ⅱ



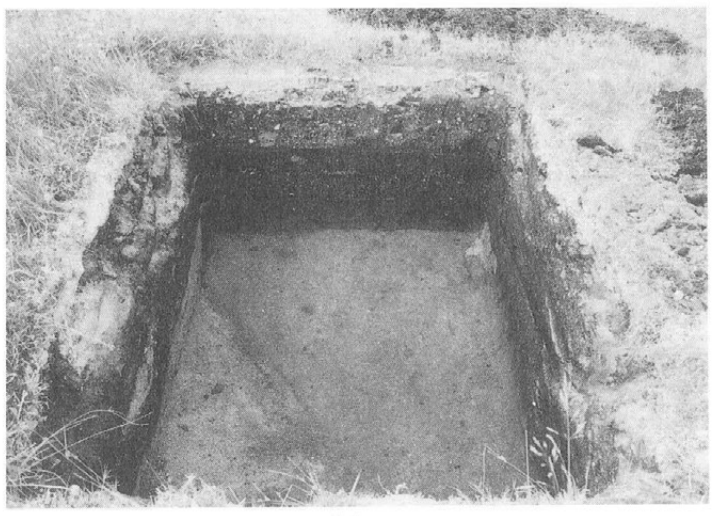
3tr・堆積状況



6tr・堆積状況



9tr・堆積状況



11tr

⑨ 佐土ヶ中第１遺跡 (10067)

所 在 地　都城市下水流町4526-1ほか2筆
　　都城市下水流町4495-1、4501-1
調査原因　農業関連(畜舎建設)
調査期間　2007.6.21～22　10.4～5
調査面積　24㎡（対象面積：5,791㎡）
　　24㎡（対象面積：2,402㎡）
担 当 者　栗山葉子
処　　置　工事着手

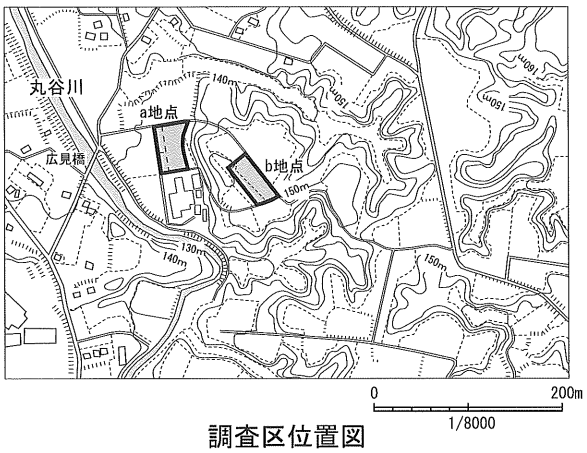
位置と環境　調査地は大淀川の支流丸谷川右岸の段丘上標高152mほどに位置し、現況はほぼ平坦な畑地である。周辺では対岸の独立丘陵に堂山遺跡、南には手向山式の壺形土器が出土した下薗遺跡、県指定志和池古墳群、築池地下式横穴墓群、十三束遺跡、松ヶ迫遺跡などの遺跡が数多く点在する。

試掘結果　調査は２地点(便宜上a、ｂ地点とする）で行われ、各々２×２ｍのトレンチを６箇所設定した。

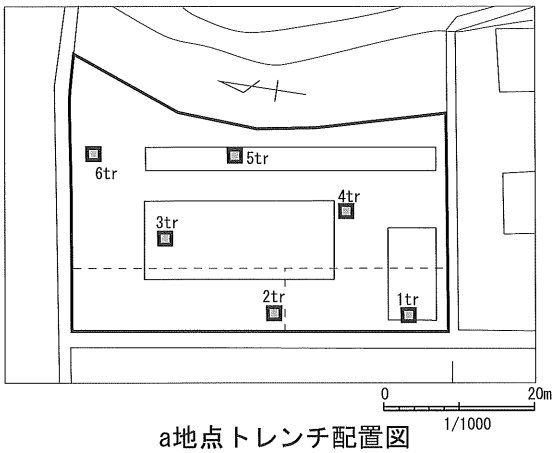
a地点では、１トレンチでは御池軽石層上面まで攪乱を受けていたが、トレンチ中央付近を境に北と南に落込みを確認した。２トレンチでは黒褐色土と褐色土（７層）より土器が出土し、暗褐色土の落込みが認められた。３トレンチではトレンチャーにより１ｍに達するほど一部攪乱を受けていたが、暗褐色土の落込みやピットを検出した。４・６トレンチでは１ｍ前後の攪乱を受けており、遺構・遺物の出土はない。５トレンチでも１ｍほどの攪乱がみられたが、御池軽石層上面で文明軽石を中位含む黒色土の落込み(溝状遺構)を確認した。

ｂ地点においては、１トレンチでは地表下、60～80cmで溝状遺構とピットを検出し、土師器、布痕土器片が出土した。２トレンチでも地表下70cmほどで溝状遺構を２条確認した。３トレンチでは地表下1.1mで溝状遺構３条が視認できた。４～６トレンチでもそれぞれ１条の溝状遺構が認められたが、５トレンチのものは近現代と思われる。

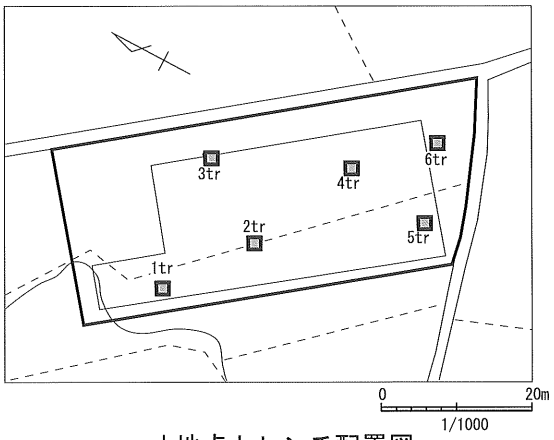
まとめ　ａ、ｂ両地点においても、遺構・遺物が出土している。土木工事等を行う際には、遺跡の取扱いについて協議となる。協議終了後、文化財保護法第93条の届出となる。



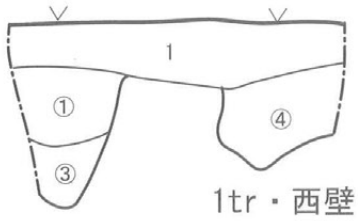
調査区位置図



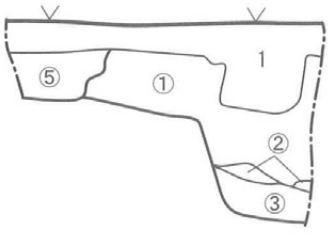
a地点トレンチ配置図



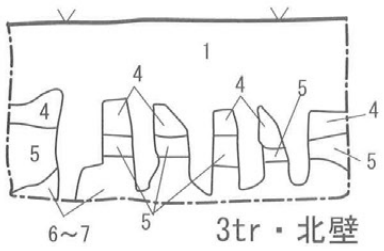
b地点トレンチ配置図



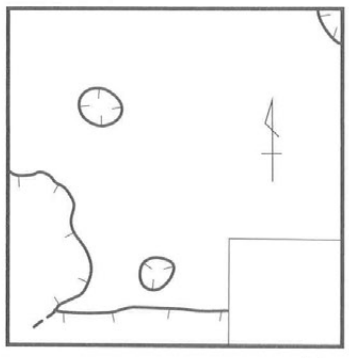
1tr・西壁



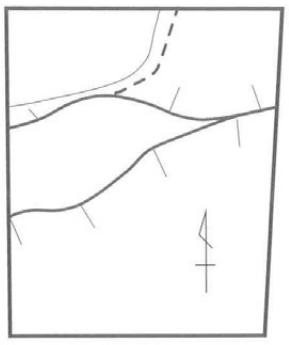
1tr・東壁



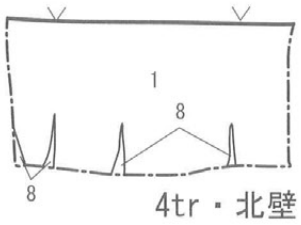
3tr・北壁



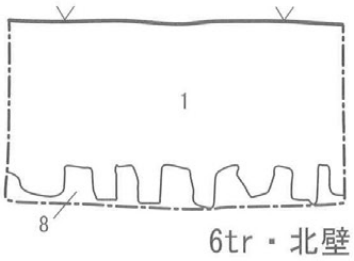
3tr



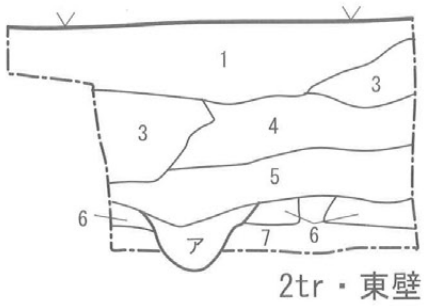
1tr



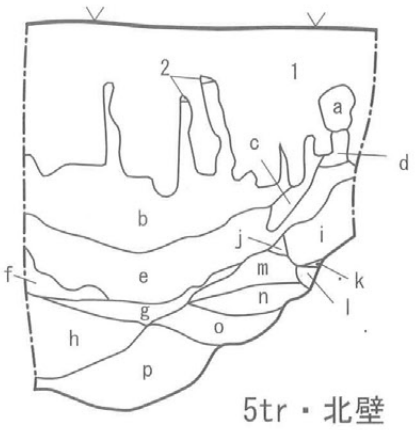
4tr・北壁



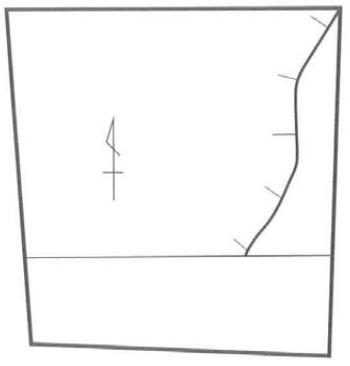
6tr・北壁



2tr・東壁



5tr・北壁

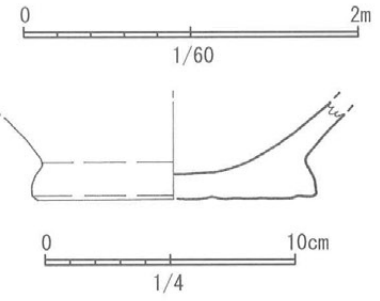


5tr

① 黒色土　御池軽石多量
② 御池軽石ブロック
③ ①より御池軽石を多く含む
④ 暗褐色土　御池軽石多量
⑤ 褐色土　御池軽石多量

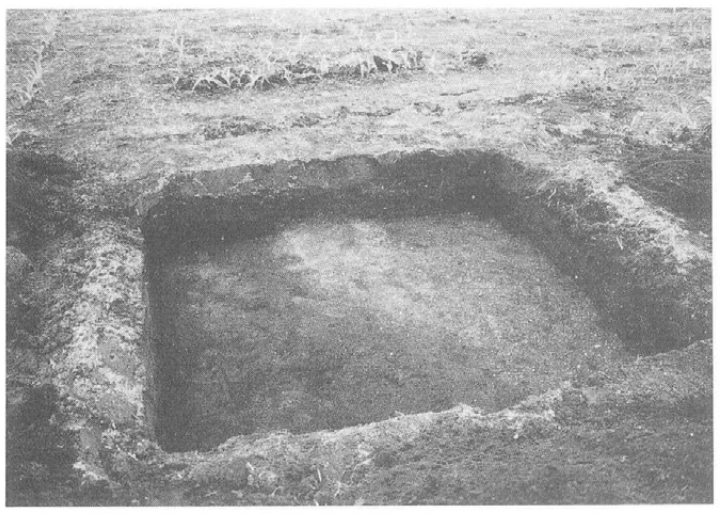
1 表土　現代の耕作土
2 攪乱　近現代
3 文明軽石
4 黒色土　黄色軽石をわずかに含む
5 褐色土　黄色軽石多量
6 黒褐色土
7 褐色土　御池軽石主体
8 御池軽石

a 黒色土　御池軽石を含む
b 灰黒色砂質土
c 樹痕
d 褐色土　大粒御池軽石を含む
e 黒灰色土
f 灰色粘質土
g 文明軽石
h 黒褐色土　御池軽石多量
i 褐色粘質土　御池軽石を含む
j 黒色土
k 御池軽石ブロック
l 黒色砂質土
m 暗褐色砂質土
n 御池軽石＋褐色土
o 黒色砂質土
p 黒褐色土　御池軽石多量

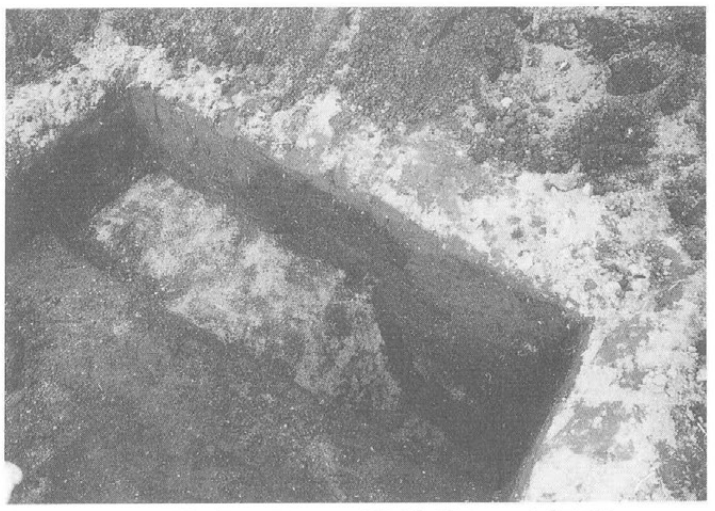


出土遺物実測図

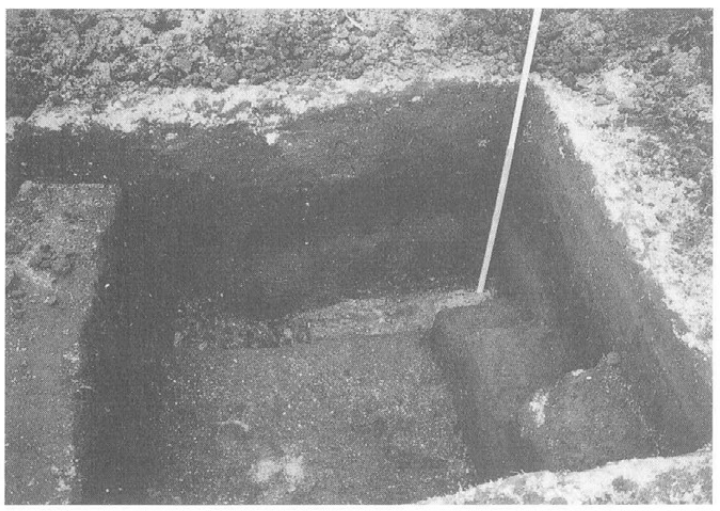
a地点：トレンチ土層断面図・平面図



a地点：1tr・遺構検出状況

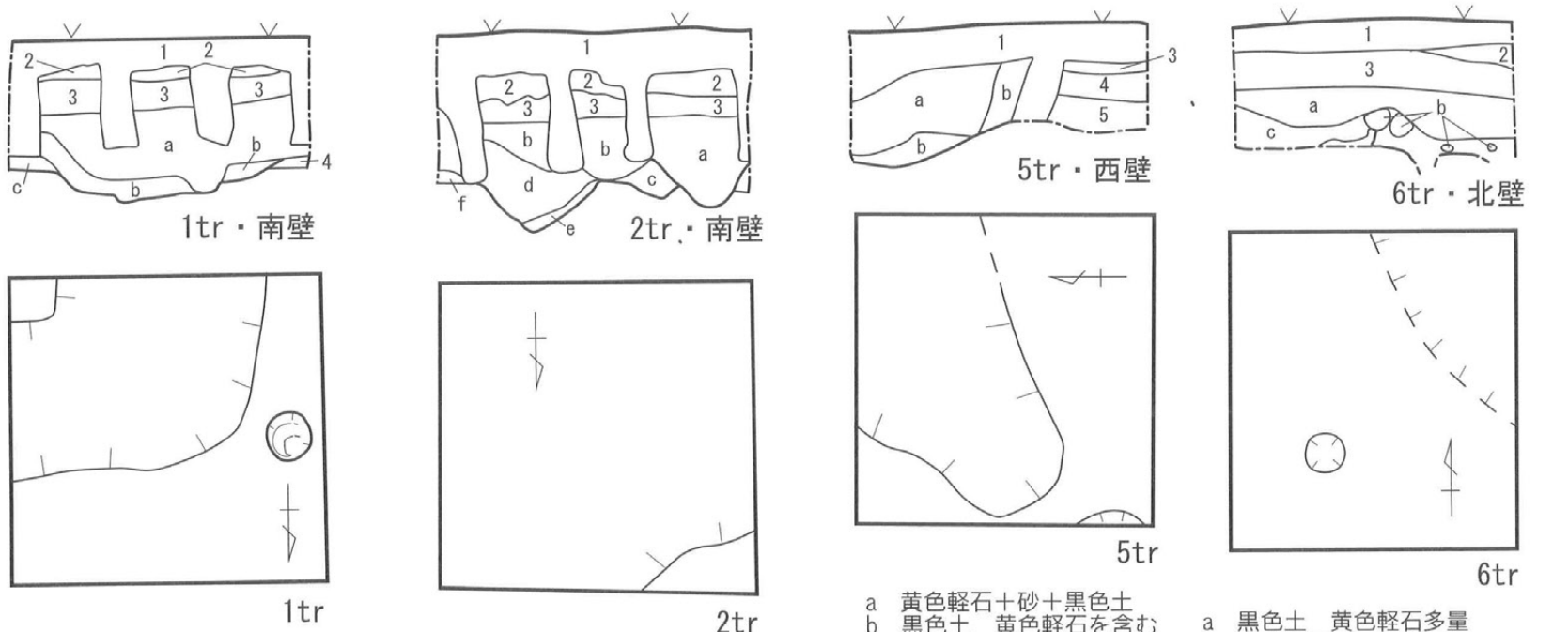


a地点：1tr・堆積状況（東壁）



a地点：2tr

a地点：5tr・溝状遺構



a　4層に類似
b　大粒の黄色軽石を含むやや固い黒色土
c　黄色軽石ブロックを含む黒色土

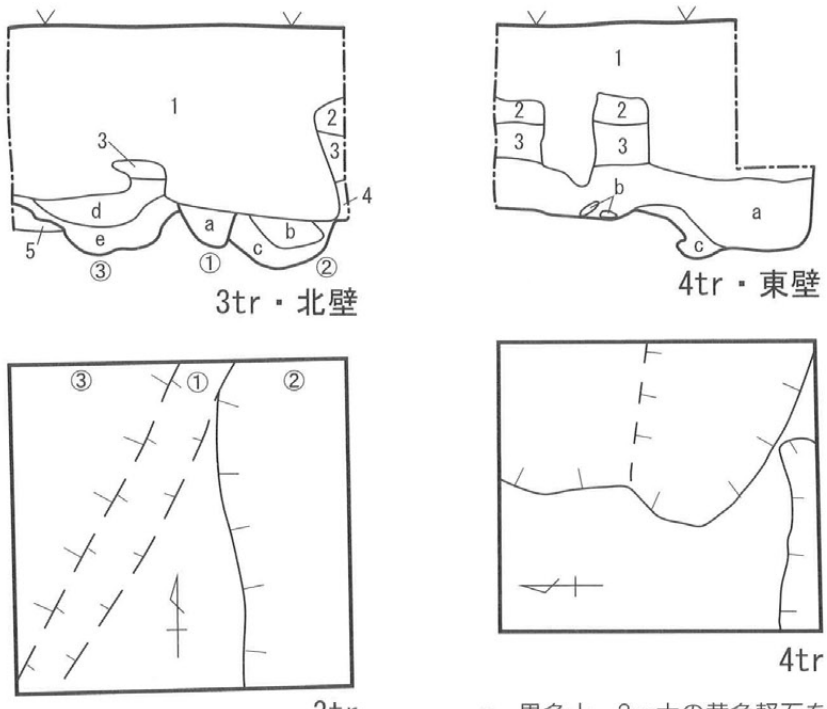
a　4層＋2㎝大の黄色軽石
b　黒褐色土　2㎝以下の黄色軽石多量
c　黒色土　粘質高　黄色軽石を含む
d　砂＋黄色軽石
e　c層に類似
f　砂＋黄色軽石　d層より黄色軽石粒大

a　黄色軽石＋砂＋黒色土
b　黒色土　黄色軽石を含む

a　黒色土　黄色軽石多量
b　黄色軽石ブロック
c　黒褐色土　黄色軽石極めて多量

1　表土
2　黒色土　黄色軽石少量
3　褐色土　黄色軽石を含む
4　黒色土　黄色軽石を含む
5　黒褐色土　黄色軽石多量
6　御池軽石

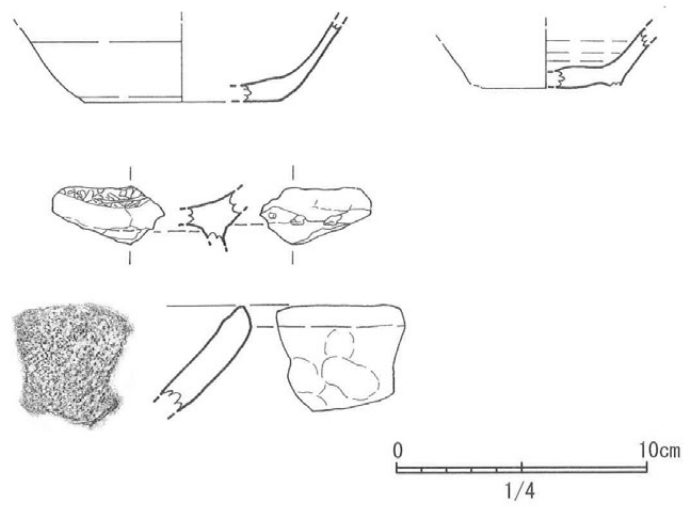
0　2m
1/60



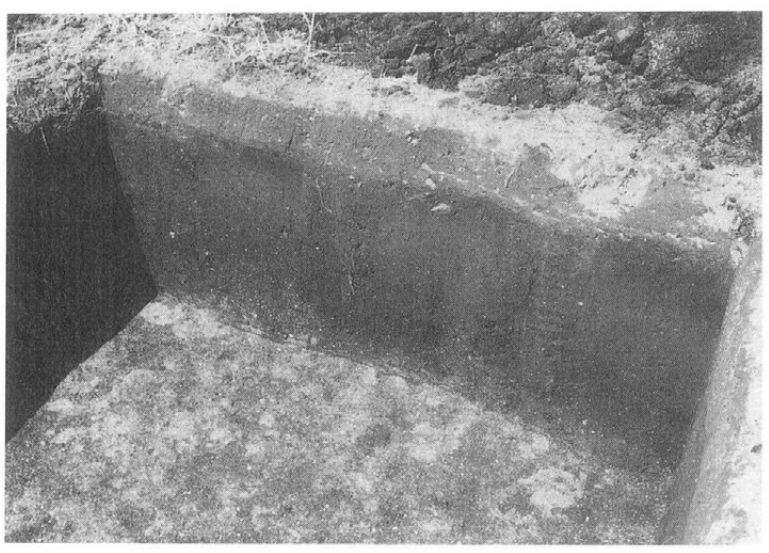
a　黒褐色土　黄色軽石多量
b　暗褐色土　黄色軽石極めて多量
c　黄色軽石主＋褐色土＋砂
d　黒色土　黄色軽石大を含む
e　黒褐色土　2㎝以下の黄色軽石多量

a　黒色土　2㎝大の黄色軽石を含む
b　黄色軽石ブロック
c　黒褐色土　黄色軽石極めて多量

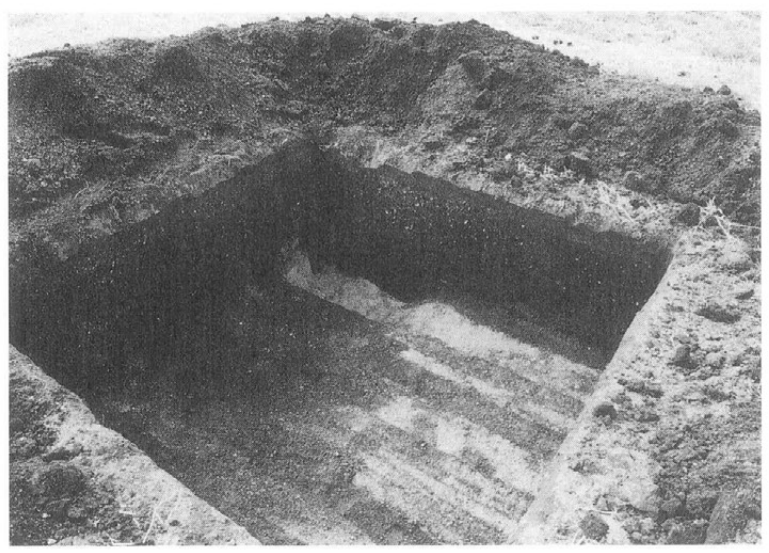
b地点：トレンチ土層断面図・平面図



b地点：1tr・第2層出土遺物実測図



b地点：1tr・堆積状況（北壁）



b地点：5tr

⑩ 向原第２遺跡 (4012)

所 在 地　都城市立野町3727番１ほか
調査原因　大学建設
調査期間　2007.7.25～26

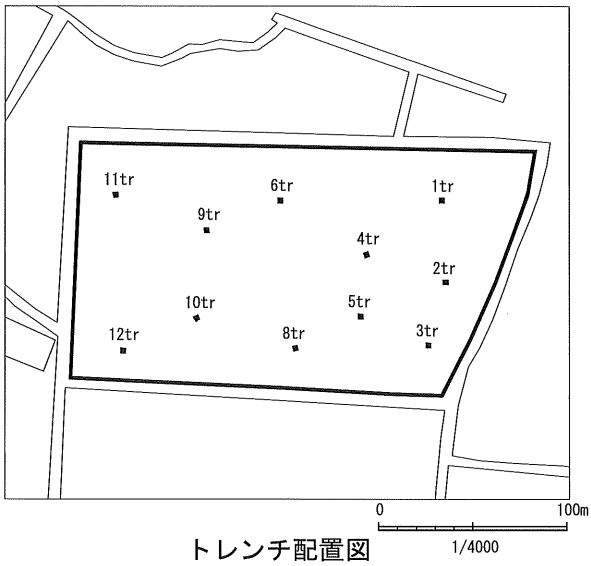
調査面積　44㎡（対象面積：27,880㎡）
担 当 者　栗山葉子　山下大輔
処　　置　一部発掘調査

位置と環境　調査地は都城盆地の東部、市街地を形成する一万城扇状地の扇央の標高162mほどの年見川左岸に位置する。当地は平成元年に一部発掘調査を実施している。西側には向原第１遺跡が存在する。

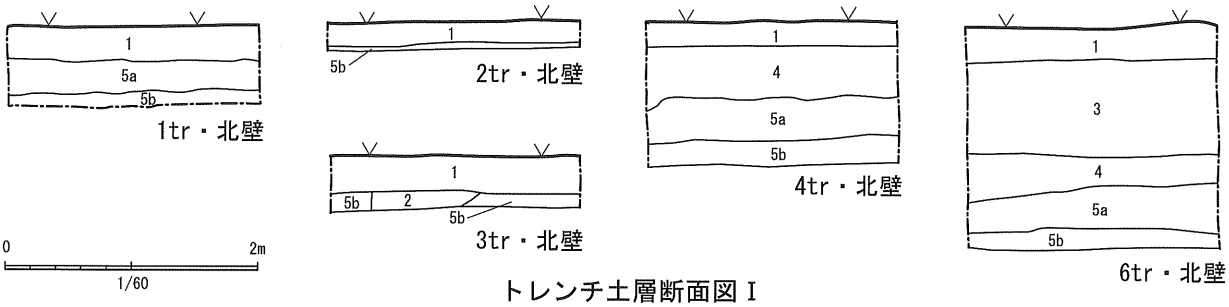
試掘結果　対象地に２×２ｍのトレンチを11箇所設定した。１～３トレンチでは遺物包含層（５層）が１、２、３各トレンチで、30cm、数cm、10cm程度しか残存していない。５層より土器片出土。４トレンチは現地表面下60cm以下では良好な堆積が認められ、５a層から土器片が多数出土。５トレンチでは５ｂ層上面より掘り込まれた硬化面を伴う溝状遺構を南北方向に検出した。６トレンチでは、現地表面下1.2mの５a層以下では良好な堆積で、土器片も出土。８トレンチでは５a層以下良好で土器片も出土。９トレンチは旧表土層以下良好で、５ｂ層より湧水。10トレンチも旧表土層以下良好だが、遺構・遺物の出土なし。11トレンチは現地表から1.6m掘下げたが、盛土層内で、湧水のため旧地表を確認できなかった。12トレンチでは1.6m下で旧地表に達し、それ以下は良好な堆積だが、御池軽石層上面より湧水。

まとめ　対象地の旧地形は東から西へかなり傾斜している。遺構・遺物は中央より東側で出土している。土木工事等の実施に際しては、協議の対象となり、終了後、文化財保護法第93条の届出となる。

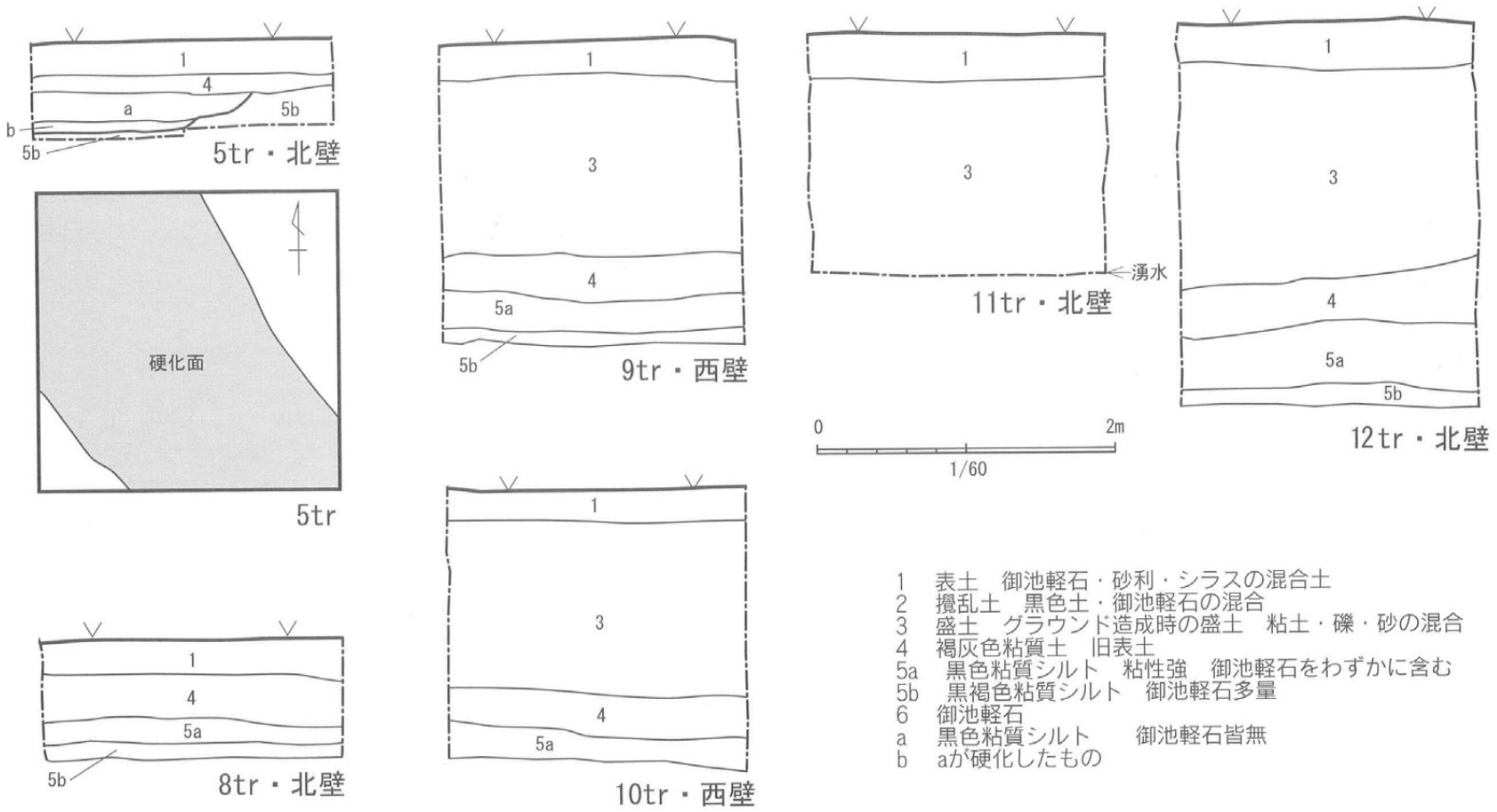
調査区位置図



トレンチ配置図

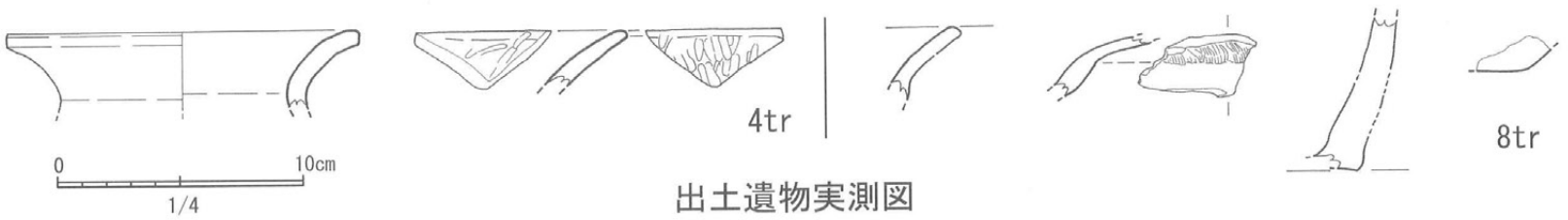


トレンチ土層断面図Ⅰ



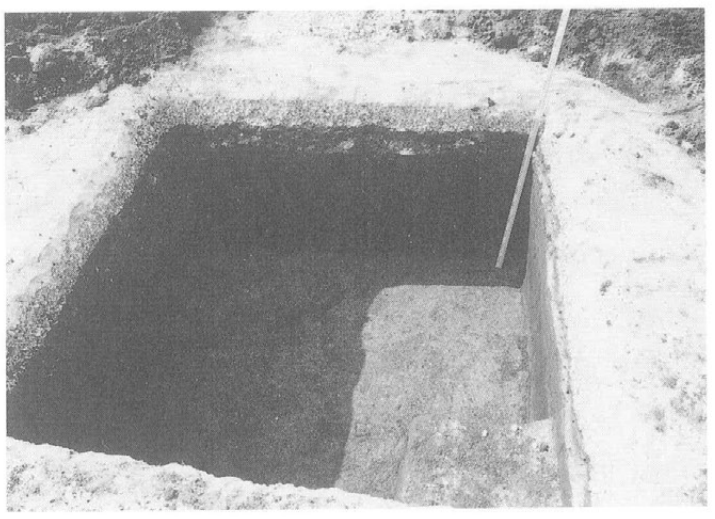
1　表土　御池軽石・砂利・シラスの混合土
2　攪乱土　黒色土・御池軽石の混合
3　盛土　グラウンド造成時の盛土　粘土・礫・砂の混合
4　褐灰色粘質土　旧表土
5a　黒色粘質シルト　粘性強　御池軽石をわずかに含む
5b　黒褐色粘質シルト　御池軽石多量
6　御池軽石
a　黒色粘質シルト　　御池軽石皆無
b　aが硬化したもの

トレンチ土層断面図Ⅱ・平面図

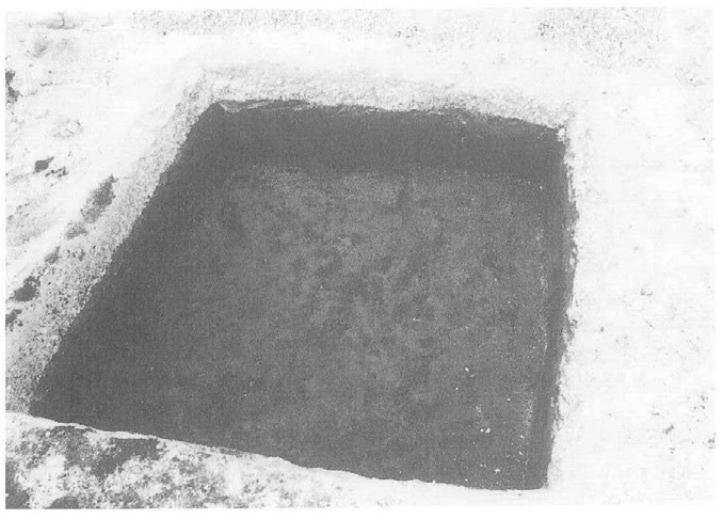


出土遺物実測図

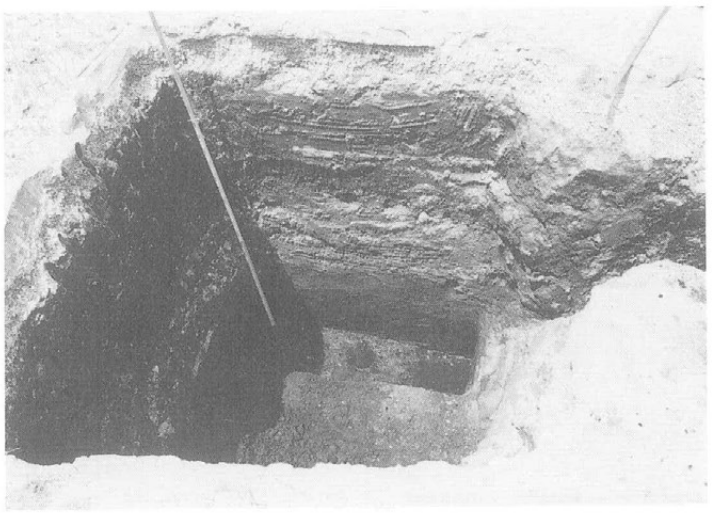
1tr



4tr



5tr



9tr

⑪ 久玉（くだま）遺跡 (4006)

所 在 地　都城市郡元町4丁目９番１ほか1筆
調査原因　アパート建設
調査期間　2007.8.23

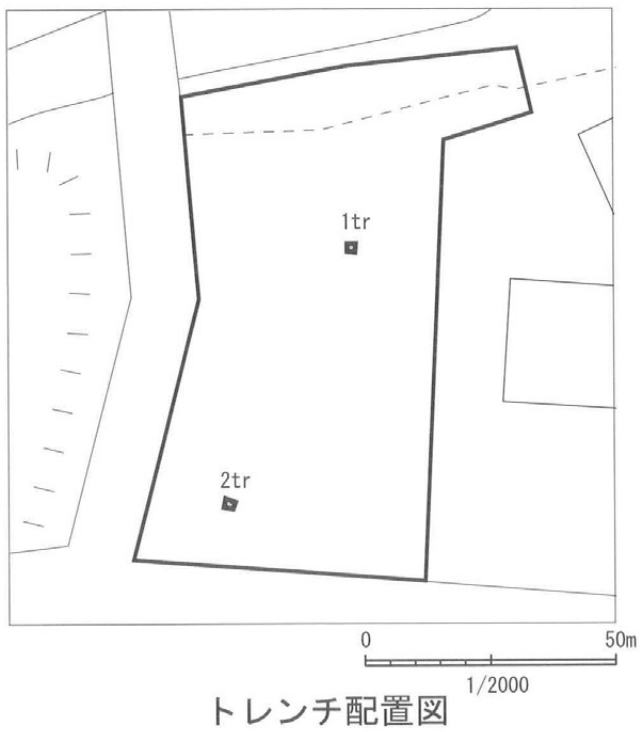
調査面積　８㎡（対象面積：１,412㎡）
担 当 者　栗山葉子
処　　置　工事着手

位置と環境　調査地は市街地を形成する一万城扇状地の北縁、標高155mほどに立地する。同北縁辺には西から祝吉遺跡、松原遺跡、久玉遺跡と中近世を主体とした遺跡群が展開する。久玉遺跡内は区画整理事業に伴い、昭和63年から平成13年にかけて12次におよぶ発掘調査を実施している。

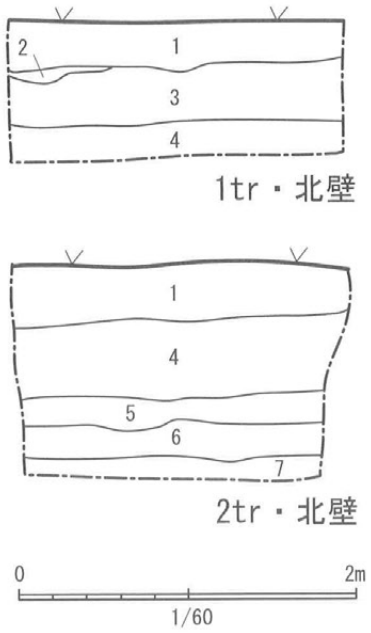
試掘結果　調査は２×２ｍのトレンチを現況宅地に２箇所設定した。１トレンチでは現表土層厚30cmで、その下に御池軽石層がごく一部残存し、下層の漆黒土、アカホヤ層は良好に堆積していた。遺構・遺物は確認されなかった。２トレンチでは現地表を30cmを測る。表土直下はアカホヤ火山灰層、黒色土層、黒褐色土層（P11・蒲牟田スコリア混）、黒褐色土層と続くが、遺構・遺物の出土はない。

まとめ　調査地はすでに御池軽石層まで破壊を受け、それより下位の層からも遺構・遺物の出土はない。対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地内に含まれることから、土木工事等に際し、文化財保護法第93条の届出が必要である。

調査区位置図

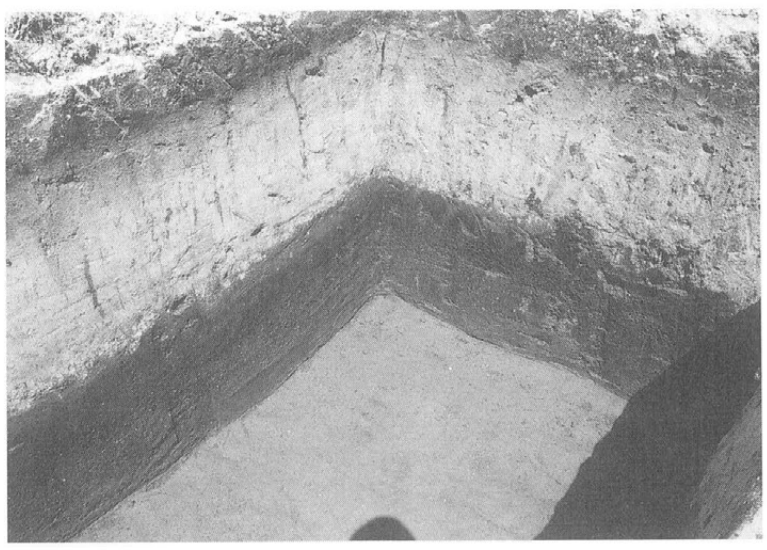


トレンチ配置図



1　表土　褐灰色砂質土　黄色軽石が混じる
2　御池軽石
3　黒色粘質シルト
4　アカホヤ火山灰
5　黒色粘質土
6　黒褐色粘質土　P11・蒲牟田スコリアを含む
7　黒褐色粘質土

トレンチ土層断面図


2tr・堆積状況

⑫ 和田遺跡 (6002)

所 在 地　都城市南横市町4181-2ほか8筆
調査原因　宅地造成
調査期間　2007.9.21、10.9

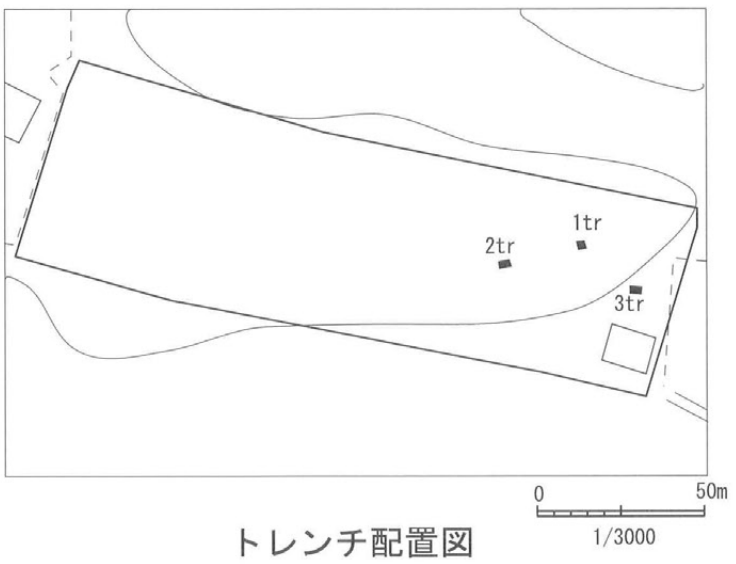
調査面積　11㎡（対象面積：5,749㎡）
担 当 者　栗山葉子
処　　置　工事着手

位置と環境　都城盆地の中央を北に流路をとる大淀川左岸蓑原台地北東側、標高165mほどに位置し、旧地形では東には横市川段丘面や旧河川の痕跡が伺えるが、現在は低地水田面となっている。周囲には、北の横市川段丘面や台地縁辺に西から田谷・尻枝遺跡、平田遺跡、早馬遺跡、正坂原遺跡などが点在する。

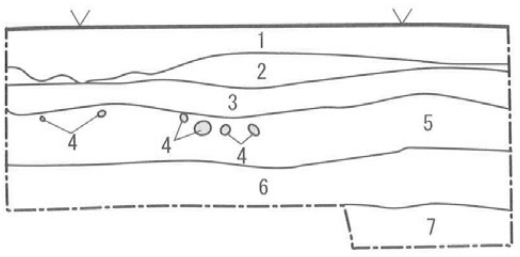
試掘結果　調査地は現況が山林と更地で、1.5×３mのトレンチを２箇所、１×２mを1箇所設定した。１トレンチでは、表土層が40～50cmでその直下にサツマ火山灰と思われる灰褐色のパミスを上位に含む褐色土、黄褐色土、暗褐色土、土壌化した二次シラス、礫混じりのシラス層と続く。遺構・遺物の出土なし。２トレンチも1トレンチと同様の堆積を示し、遺構・遺物の出土はなかった。３トレンチでは、表土層20cm、以下黒色土、暗褐色土、御池軽石層と堆積していたが、遺構・遺物の出土は認められなかった。

まとめ　対象地において遺構・遺物の出土はなかったが、周知の埋蔵文化財包蔵地内であることから、土木工事等を行う際には文化財保護法第93条の規定により、埋蔵文化財発掘届出の提出が必要である。

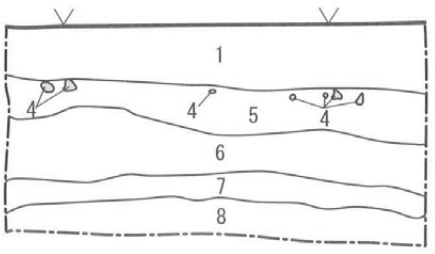
調査区位置図



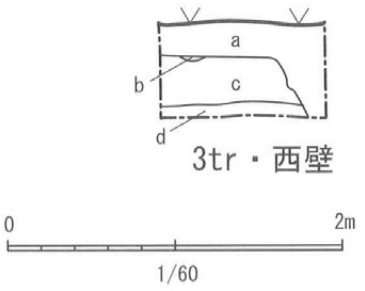
トレンチ配置図



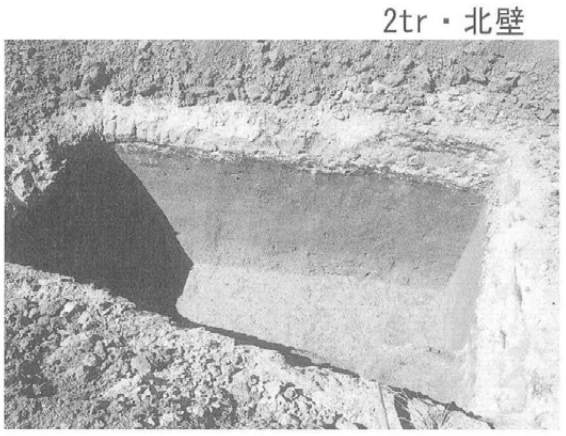
2tr・北壁



1tr・北壁



3tr・西壁


2tr・堆積状況

1　表土　シラス・礫
2　黒褐色土　橙色・黄色パミスを含む
3　暗褐色土　黄色・白色パミスをわずかに含む
4　サツマ火山灰
5　褐色土　黄色・白色パミス・青灰色礫を含む
6　にぶい黄褐色土　橙色パミスを含む
7　暗褐色土
8　土壌化した二次シラス
9　礫を含む二次シラス

a　表土
b　文明軽石
c　黒色土　黄色軽石を含む
d　暗褐色土　黄色軽石極めて多量

トレンチ土層断面図

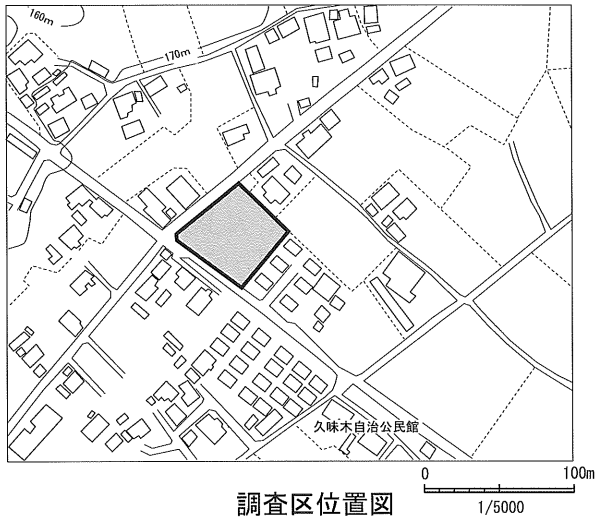
⑬ 池原遺跡 (6010)

所 在 地　都城市蓑原町1873番地２
調査原因　宅地造成
調査期間　2007.10,22
調査面積　24㎡（対象面積：2,493㎡）
担 当 者　近沢恒典
処　　置　工事着手

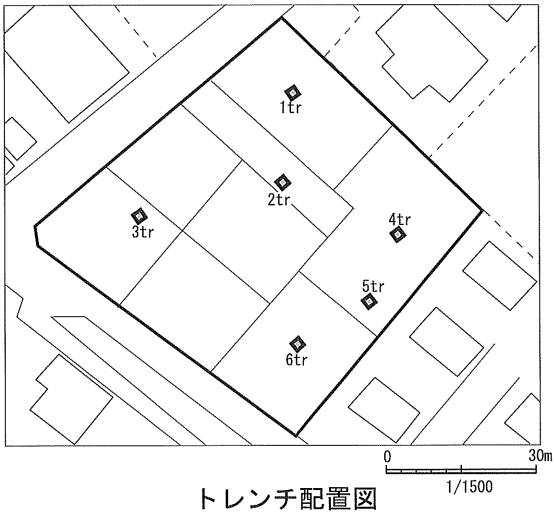
位置と環境　都城盆地の中央を北に流路をとる大淀川の支流横市川左岸、蓑原台地西側縁辺、標高176mほどに位置する。南側隣接地で平成6年に一部発掘調査（池原遺跡）を実施している。このほか、北の横市川段丘面に田平下、馬渡、江内谷、坂元Ａ遺跡が、台地縁辺に蓑原、中尾、中尾山・馬渡遺跡が点在する。

試掘結果　対象地に２×２ｍのトレンチを6箇所設定した。各トレンチとも表土層から5層の御池軽石層まで台地上の基本的な層序が認められたが、トレンチャーによる撹乱が激しく、御池軽石層上面まで及んでいた。すべてのトレンチにおいて、遺構・遺物の出土はなかった。

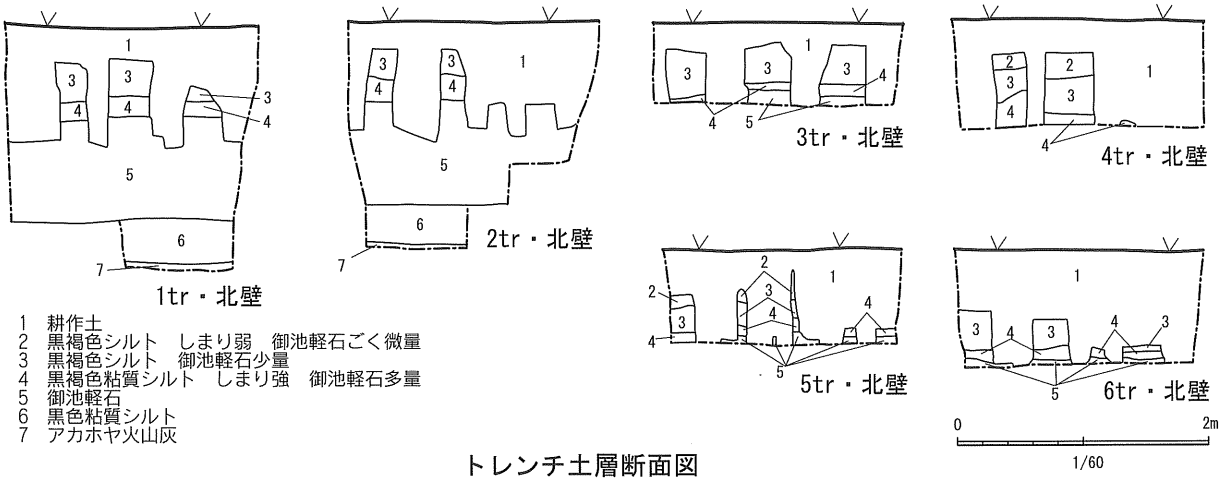
まとめ　対象地において遺構・遺物の出土は認められなかったが、周知の埋蔵文化財包蔵地内であるため、土木工事等を行う際には文化財保護法第93条の規定により、埋蔵文化財発掘届出の提出が必要である。



調査区位置図



トレンチ配置図



1　耕作土
2　黒褐色シルト　しまり弱　御池軽石ごく微量
3　黒褐色シルト　御池軽石少量
4　黒褐色粘質シルト　しまり強　御池軽石多量
5　御池軽石
6　黒色粘質シルト
7　アカホヤ火山灰

トレンチ土層断面図

⑭ 乙房町満永地区

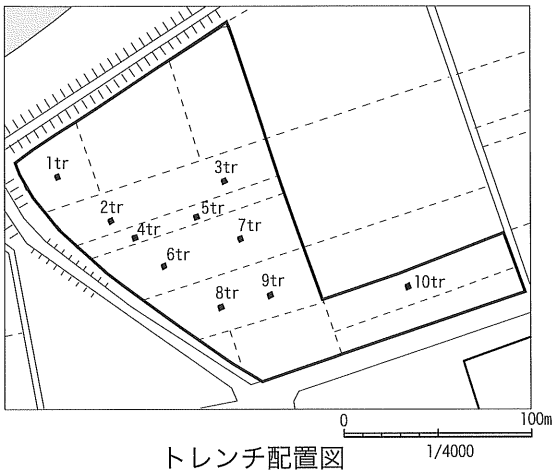
所 在 地　都城市乙房町4102番地ほか10筆
調査原因　工場建設
調査期間　2007.11.13～14
調査面積　40㎡（対象面積：18,304㎡）
担 当 者　近沢恒典
処　　置　工事着手

位置と環境　調査地は都城盆地の西部、月野原台地の北側の庄内川右岸、一部段丘面を含む庄内川低地（沖積地）の標高143mほどに位置する。周囲には、台地縁辺に近世期の平田念仏洞（かくれ念仏洞）、対岸には安永城跡が広がり、菓子野小学校付近には菓子野地下式横穴群や庄内古墳（すでに消滅）が点在する。

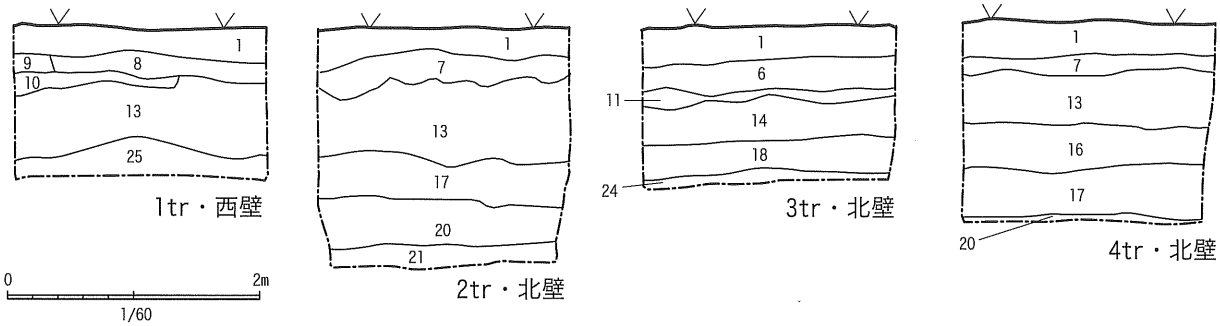
試掘結果　対象地に２×２ｍのトレンチを10箇所設定した。１～４トレンチでは表土層が40～50cmほどあり、以下砂層、粘質の強いシルト層が堆積している。これらの層は河川作用に係わる堆積と思われる。また、1トレンチで土器片が出土した。５～10トレンチでは表土層より６層に及ぶ造成土層がみられた。それより下層は１～４トレンチ同様の層序を示した。６トレンチでは地表下2.5mで湧水を確認した。また、９トレンチでは下層でシルト層、砂層と軽石層の互層がみられ、昭和43・44年の耕地整理によって消滅した小河川の流路跡と思われる。

まとめ　すべてのトレンチにおいて、沖積地の様相を示し、遺構の検出は確認されず、1トレンチと表採で土器小片2点が出土した。当該地は試掘の結果遺跡が存在する可能性は極めて低いと思料される。今後土木工事等を行うことに支障はない。

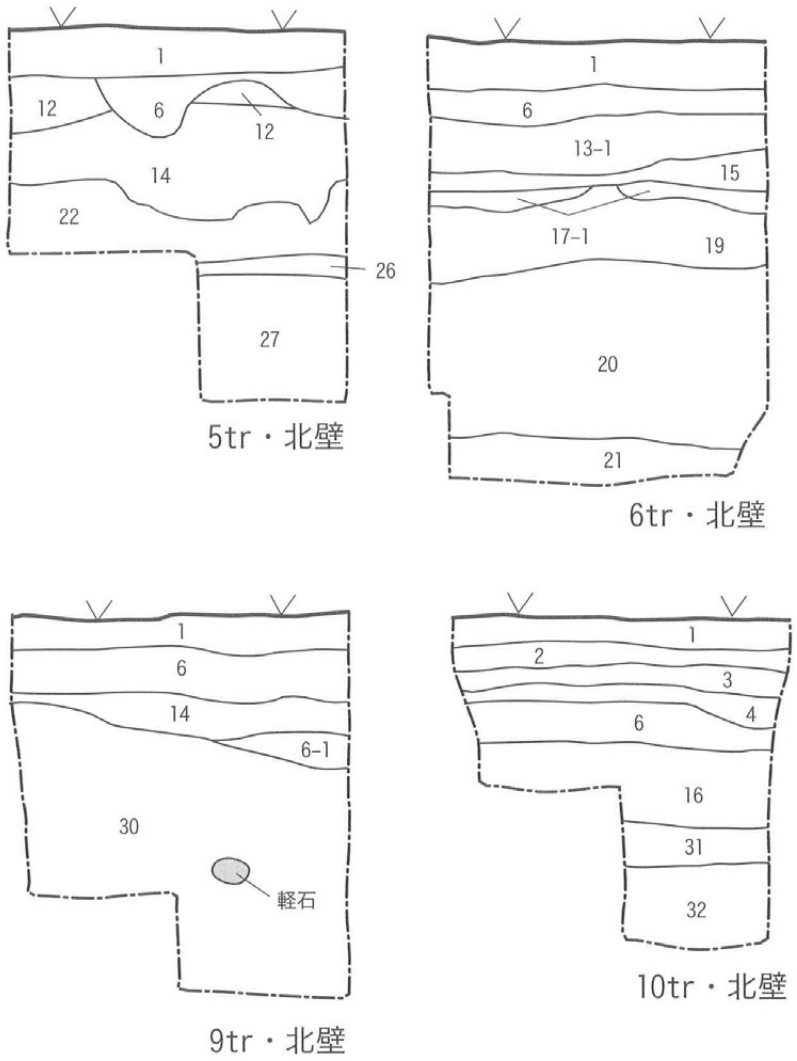
調査区位置図



トレンチ配置図

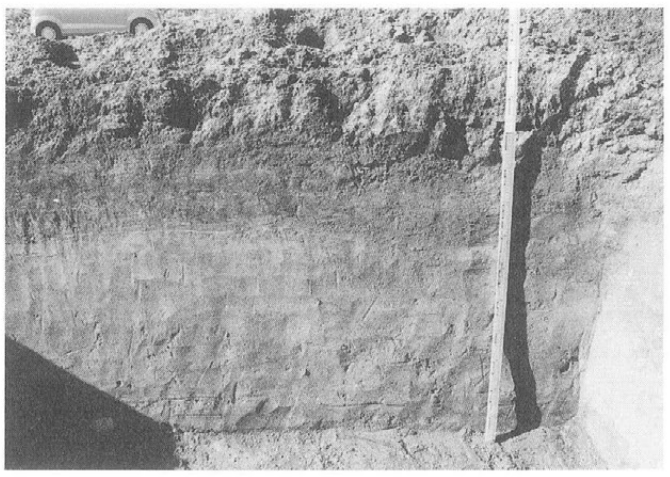


トレンチ土層断面図Ⅰ

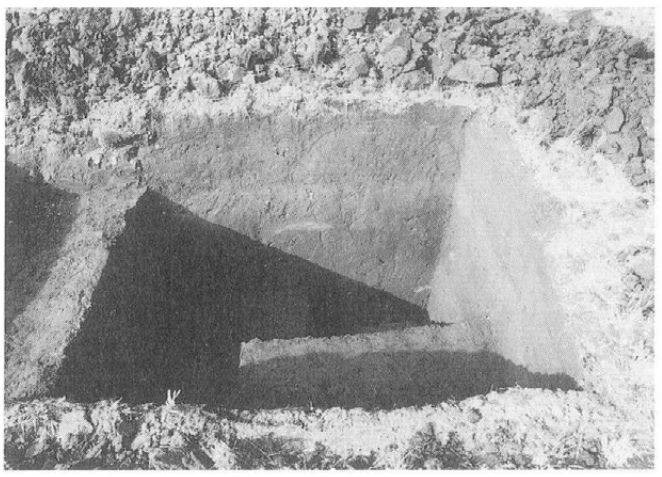


1　耕作土
2　灰褐色シルト　しまり強　白色・黄色軽石少量
3　灰色シルト　しまり強　白色軽石少量
4　暗灰色シルト　しまり強　白色軽石少量　3層より暗い
5　灰褐色シルト　しまり強　白色・黄色軽石ごく少量
6　灰褐色土　しまり強　白色軽石・小石少量　（造成土）
6-1　6層より暗い
7　茶褐色シルト　白色軽石ごく微量
8　明黄褐色土　黒色土（粘質）・灰色粘土・白色軽石を含む
9　明黄褐色土　粘性強　灰色粘土をブロック状に含む
10　明黄褐色シルト　粘性強
11　暗褐色土　しまり強　白色軽石ごく少量
12　暗褐色シルト　しまり強　白色軽石ごく微量
13　明黄褐色砂
13-1　13層よりわずかに明るい
14　暗灰色砂　黄色砂ブロックを含む
15　明灰色砂
16　黄褐色シルト　粘性強
17　明黄褐色シルト　粘性強　軽石を含む
18　暗灰色砂　しまり強
19　灰色砂　白色軽石ごく微量
20　明灰色シルト　粘性強　軽石ごく微量
21　灰色砂　粘性やや強　軽石ごく微量
22　黒灰色シルト　粘性強
23　黒灰色土　しまり強　粘性やや弱　白色軽石少量
24　暗灰色シルト　粘性やや強　砂層が混じる
25　3層と黒色砂の互層　軽石塊・砂利を含む
26　黒灰色砂
27　黒灰色砂　粘性強
28　明灰色シルト　粘性極めて強
29　明灰色砂　一部が黄色砂と互層
30　灰色シルト　砂・黄色軽石の互層　軽石塊を含む
31　灰色シルト　粘性強　しまり強
32　明灰色シルト　粘性強　やわらかい

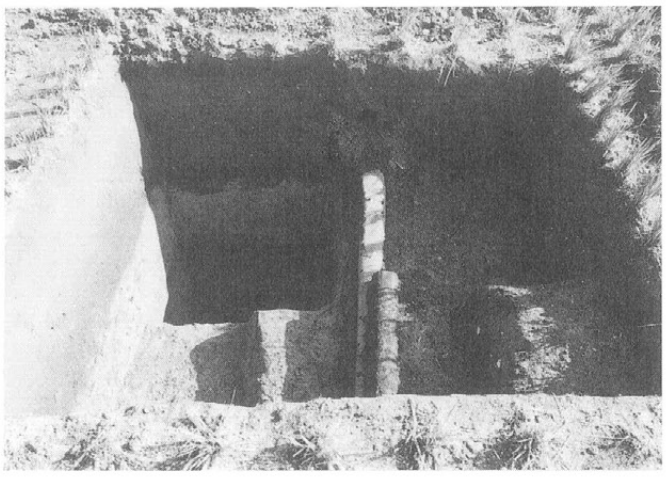
トレンチ土層断面図Ⅱ



1tr・堆積状況



7tr



10tr

作業状況

報告書抄録

ふりがな	しないいせき
書名	市内遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	都城市文化財調査報告書
シリーズ番号	第88集
編・著者名	矢部喜多夫　近沢恒典
編集機関	都城市教育委員会事務局文化財課　TEL 0986－23－9547　fax 0986 - 23 - 9549
所在地	宮崎県都城市菖蒲原町19－1　都城市役所菖蒲原町別館　〒885-0034
発行年月日	２００８年３月24日

所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
横尾原	都城市大岩田町 5795 - 2 ほか６筆	31° 41′ 32″ 付近	131° 3′ 20″ 付近	2007.5.21～22	32 ㎡	公園造成
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
散布地	縄文～近世			土師器小片２		工事着手
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
太郎坊中原	都城市太郎坊町 1209 番地	31° 47′ 12″ 付近	131° 5″ 18″ 付近	2007.6.28	4.25 ㎡	道路改良
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
散布地	古墳・平安・中世					工事着手
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
中尾第２	都城市安久町 2648 の２番地	31° 41′ 42″ 付近	131° 5′ 37″ 付近	2007.8.29	8 ㎡	校舎改築
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
散布地	中世					工事着手予定
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
田谷・尻枝	都城市南横市町 3800 番地	31° 44′ 30″ 付近	131° 1′ 59″ 付近	2007.8.30	12 ㎡	屋内体育館改築
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
散布地	弥生・古墳・中世・近世			縄文土器片２、弥生土器片２		工事着手予定
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
女橋	都城市今町 7814 - 1、7823 - 1	31° 40′ 34″ 付近	131° 1′ 51″ 付近	2007.9.12 ～ 14	12 ㎡	土層改良事業
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
散布地	縄文～近世					事業着手
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
梅北針谷	都城市梅北町 774 - 1,2	31° 41′ 8″ 付近	131° 2′ 36″ 付近	2007.9.12～14	12 ㎡	土層改良事業
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
散布地	弥生・中世・近世					事業着手
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
大岩田上村	都城市大岩田町 6851-5	31° 42′ 6″ 付近	131° 2′ 54″ 付近	2007.11.20～21	12 ㎡	土層改良事業
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
散布地	弥生・中世・近世					事業着手

所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
上針谷・下針谷	都城市梅北町 588-1	31° 41′ 9″ 付近	131° 2′ 16″ 付近	2007.11.20～21	12 ㎡	土層改良事業
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
散布地	弥生～近世					事業着手
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
八幡城	都城市五十町 1054-1,1058-1	31° 42′ 52″ 付近	131° 2′ 41″ 付近	2007.10.9	18.5㎡	道路改良
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
散布地	弥生・中世			陶磁器片		一部発掘調査
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
田谷・尻枝	都城市南横市町 3918-3ほか	31° 44′ 37″ 付近	131° 1′ 59″ 付近	2007.5.15	44.5 ㎡	宅地造成
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
散布地	弥生・古墳・中世・近世			土器小片 3		事業着手
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
尾曲	都城市早水町 4503-1の一部	31° 44′ 19″ 付近	131° 5′ 28″ 付近	2007.5.28	29 ㎡	宅地造成
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
散布地	中世			土師器小片 2		事業着手
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
佐土ヶ中第 1	都城市下水流町 4526-1 ほか	31° 49′ 51″ 付近	131° 5′ 42″ 付近	2007.6.21～22 2007.10.4～5	24 ㎡ 24 ㎡	農業関連
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
散布地	平安			土器片 1		事業着手
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
向原第 2	都城市立野町 3727 番地 1	31° 43′ 46″ 付近	131° 5′ 59″ 付近	2007.7.25～26	44 ㎡	大学建設
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
集落跡	弥生・古墳	溝状遺構		土器片		一部発掘調査
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
久玉	都城市郡元町 4 丁目 9 番 1ほか	31° 44′ 50″ 付近	131° 2′ 54″ 付近	2007.8.23	8 ㎡	アパート建設
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
集落跡	中世・近世					事業着手
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
和田	都城市南横市町 4181-2 ほか	31° 44′ 31″ 付近	131° 2′ 32″ 付近	2007.9.21 2007.10.9	11 ㎡	宅地造成
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
散布地	弥生・古墳・中世・近世					事業着手
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
池原	都城市蓑原町 1873 番地 2	31° 44′ 9″ 付近	131° 1′ 15″ 付近	2007.10.22	24 ㎡	宅地造成
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
散布地	弥生・古墳・中世					事業着手
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
乙房町満永地区	都城市乙房町 4102 番地ほか	31° 49′ 51″ 付近	131° 5′ 42″ 付近	2007.11.13～14	40 ㎡	工場建設
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
—	—					事業着手

都城市文化財調査報告書第88集

市内遺跡

平成20年（2008）3月24日

編集・発行　宮崎県都城市教育委員会
〒885-0034　宮崎県都城市菖蒲原町19-1号　菖蒲原町別館
TEL 0986-23-9547 FAX 0986-23-9549

印　　刷　株式会社　都城印刷
〒885-0055　宮崎県都城市早鈴町1618番地
TEL 0986-22-4392 FAX 0986-22-4891